京城日報
THE KEIJO NIPPO
大正七年十一月一日　第三千六百五十六號（一）
二十日夕刊（朝夕刊併せて八頁）

○最近露都狀勢觀測
社會黨內閣組織の外途無けん

露國最近の狀勢を觀測するに過激派は露都を、ケレンスキー氏及びカレヂン將軍は莫斯科を各々支配し而も何れも國家全般に勢力を及ぼさず而して此の際內亂を避けんとせば過激派を包含せる社會黨內閣を成立せしめ平和促進を標榜する外道無かる可しと（倫敦電報）

○ケ氏自殺か遁亡か

ケレンスキー氏は一敗地に塗れ自殺を企てたりとの說あり又一說にはカレヂン將軍に合せん爲遁亡せりとも傳へらる（露都電報）

○過激派委員聲明

十七日過激派會議委員は聲明して曰く露國內の諸民族は各々自己の政體を定むる權利あり又分離して獨立國を形成する權利をも有すと（露都電報）

○湖南軍長沙占領

長沙は湖南軍の爲に占領され傅督軍等逃亡し北軍は支離滅裂の狀態となり北京政界再び動搖し始めたり（北京特電）

○梁總長辭表提出

財政總長梁啓超氏は財政困難の爲め其任に堪へざるとの理由の下に辭表を提出したるも馮總統及び段總理は其留任を迫りて之を許さず（北京特電）

○米更に召集令發布

華盛頓來電＝更に從兵名簿に登錄せる米國民九百萬人中募入合格者の殘部に對し更に召集令を發布せり（紐育電報）

○伊軍敵を擊退す

伊軍はガリオ[illegible]東方に於ける獨軍を擊退せり（羅馬來電）

○兩宮殿下下鹿

久邇、山階兩宮殿下には卅日朝門司御通過鹿兒島へ向はせられたり（門司特電）

○豫算查定終了

大正七年度豫算は十九日大藏省の查定を終了し直ちに閣に回送せられたり豫算閣議は二十一日より引續き開會せらるべし（東京特電）

○高橋武官釜山發

總督府武官高橋少將は二十日朝著釜午前十一時三十分發列車にて京城に向ふ筈（釜山特電）

○膳檢事長歸任

大邱覆審法院檢事長膳鉦次郎氏は二十日朝著釜午後十時半發列車にて大邱へ歸任せり（釜山特電）

○島田監理課長北行

遞信局監理課長島田志良氏は南鮮巡視中の處二十日午前十時半發列車にて京城に向へり（釜山特電）

身に泌み觀戰武官中には外套を被り寒氣を凌ぐものありしも御統監宮殿下には外套をも召されず御野立所に御直立御統裁あらせらる宮殿下の御英姿を拜し恐懼せり上原參謀總長の講評後優渥なる勅語を賜ひ將卒は感泣聖慮に副ひ奉らん事を期したり（釜山特電）

◉總監天機奉伺

天皇皇后兩陛下には演習地より行幸啓あらせられたるに付き山縣政務總監は二十日午前十時三十分波多野宮內大臣宛謹で天機並に御機嫌奉伺の執奏を請ふ旨電報を發せり

◉李王天機奉伺

李王、李太王兩殿下及び李堈公殿下は天皇、皇后兩陛下東京へ還幸啓あらせられたるに付き二十日山縣政務總監を經て天機並に御機嫌奉伺の電報を發せられたり

◉政務總監發期

山縣政務總監は二十一日午前九時三十分南大門發列車にて遞信秘書課長、陶山遞信事務官を從へ會寧に赴き清會線開通式臨席のため出張すべし

▲開通式列席者　土木局技師坂出鳴海、土地調查局總務課長[illegible]、遞信局[illegible]寺久保要藏、[illegible]の諸氏並に地方有力者新聞通信記者等は二十一日午前九時三十分の南大門發列車にて清會線に向ふ

◉大田聯隊引揚　龍山新兵營に入る

大田歩兵第四十旅團の第七十九聯隊は聯隊長大佐富塚貞二郎氏以下演習軍司令部に參集し龍山新兵營に引揚げの協議をなしたる結果各々大田聯隊本部並に各地分派守備隊を左の順序により引揚ぐる事となれり

▲聯隊本部先發　大田聯隊本部の先發隊たる將校七名下士卒七十名は二十一日午前五時四十九分大田驛發同九時零六分龍山驛着列車にて入京新兵營に入るべし

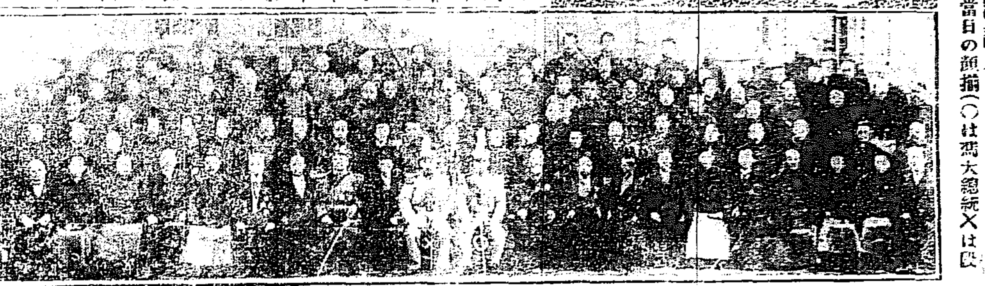
▲聯隊本部　野島大佐以下第七十九聯隊本部並に大田の第一大隊本部第三第四兩中隊將校二十一名下士以下百五十名は十一月二十七日午前八時十分大田驛發列車にて出發午後二時四十分龍山驛着列車にて入京新兵營に入る

▲第二中隊　忠州公州方面に分駐せる第二中隊は將校四名下士以下七十名は二十七日午前八時十五分鳥致院發列車にて出發午後二時四十分龍山驛着列車にて入城す

▲第九中隊　[illegible]方面に駐屯し居れる第九中隊は將校四名下士以下七十名は十一月二十八日午前[illegible]驛發同日午後七時二十四分龍山驛着列車にて入京す

▲第七中隊　金化方面に駐屯し居れる第七中隊は將校四名下士以下七十名は二十八日午前八時十分鐵原驛發列車にて出發午前十一時五十四分龍山驛着列車にて入城する事に決定又水原春川の各守備隊は陸路入京すべく以上を以て大田聯隊は全部龍山に引揚げ龍山駐屯の步兵は二聯隊となる譯なり

△參議院開院式と正副議長　（上右）議長王揖唐氏（上左）副議長那彦圖氏（下）開院式當日の撮影（○は馮大總統×は段國務總理）（北京）



本紙定價　廣告料金　發行所　京城太平町通一丁目　京城日報社

◉定例長官會議

二十日午前十時より總督府第一會議室に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、各部長官、局長、所屬官署長參集諸般の政務に就き協議を遂げ正午散會せり

□對米禁鐵交涉顛末(1)　遞信省發表

聯合與國に於ては本邦より船舶の援助を得たき希望を有し我も可能ふ限り援助を與ふるに吝なるものにあらず從て本邦に於て船舶の拂底を感ずること甚大なるに拘はらず聯合國の需要に應じ相當分量の船舶を融通し又は相當[illegible]

▲本邦船舶を傭船することを禁止せざりし次第なりしが本年六月中我同盟國たる英國より本邦政府は出來得る限り船舶の供與を希望し來りたる以上本邦政府は出來得る限り之に應じたき希望を以て種々調查する所ありしが其中英國より造船材料を供給し我造船設備を利用して極力船舶の建造を促進し之を以て援助に充つることを最も便宜にして且つ有效なり

▲我邦に提供するの餘地なく遂に實行する能はざるに至れり然るに英國と交涉中米國に於て造船材料輸出禁止の事起り本邦造船所又は輸入商より米國製鐵所に注文契約濟に係れる材料を引取り得ざることとなりたるを以て[illegible]陳情し來れり是より先我が外務當局に於ても米國に於ける[illegible]に應じ深く注意を加へ適當の措置を採ることに怠らざりしが此陳情に接し直ちに交涉の步を進め極力斡旋する所ありしも米國に於ける聯合國救援上造船材料に對する自國の用途甚だ

▲急迫を告げ軍事用以外[illegible]

▲全然別個の問題として[illegible]

◉大田には大隊

大田聯隊本部並に駐屯隊の龍山引揚は別項の如きが其後の大田には大邱聯隊の一個大隊分駐すべく大田聯隊引揚後移駐し來るべし

◉保線職制變更

京城管理局にては從來大邱、大田、平壤、龍山外約十箇所に保線區を設けありしが二十日限り制を改革して大田、龍山、平壤の三箇所に保線係を置き係に主任を置く事となり左の三氏を選任せり

龍山保線係主任　[illegible]田一郎
大田保線係主任　岡德雄
平壤保線係主任　岡村正雄

而して大田保線係は京釜線の一部[illegible]龍山保線係は[illegible]平壤保線係は京義線の大部分[illegible]各線を管掌すべし

▲工務課職員異動　京管工務課に於ては保線係職制改正の結果職員の大異動を行ひ二十日發表したり

◉上半貿易

十一月上半期に於ける[illegible]合計八百九十六萬七千餘圓にして前年同期に比し何れも增加[illegible]

十二圓、輸移入品價額四百六十五萬九千百六十六圓合計八百九十六萬七千三百八十八圓にして之を

▲前年同期に比すれば輸移出に於て百九十一萬八百五十八圓輸移入九十九萬九千六百四十五圓の何れも增加を示せるが輸移入超過額は三十四萬四千二十四圓にして前年同期に於ける入超百二十六萬一千二百三十七圓に比し九十一萬七千二百十三圓の激減を告げたるを以て輸移出費の增進著しきを見るべし而して本年一月以降の累計は輸移出六千九百十八萬八千三十二圓、輸移入八千四百四萬八百八十八圓合計一億五千三百二十二萬八千七百六十五圓にして之を前年同期に比すれば輸移出二千六百四十四萬一千九百六十九圓、輸移入二千百五十五萬四千百八十六圓合計四千七百九十九萬六千百九十五圓の增加なりとす

▲輸移出入重要品及び其額を擧ぐれば左の如し

▲輸移出（圓單位）[illegible]

▲輸移入（圓單位）[illegible]

右掲輸移出品中前年同期に比し著しき減額を見たるは

▲生牛牛皮金鑛及び汰鑛なるが牛は牛疫の蔓延と金以外の鑛物騰貴せる爲め自然金鑛採掘高の減少を來せるとに原因せるも

のにして米豆、棉花、蠶等の激增せるは生產額の增進と價格の騰貴せるが爲めなり

◉金輸移出入高

十一月上半期朝鮮に於ける金銀貨及地金銀輸移出入高は輸移出金貨及金銀地金八百六十圓合計十一萬一千六百四十四圓輸移入は金貨及金地金四千四百十圓銀貨及銀地金三萬一千三百六圓合計三萬五千七百十六圓之を前年同期の輸移出入高に比すれば輸移出七十三萬五千六百八十七圓輸移入四千五百九十二圓の何れも減少を見たり

◉清會線開通式次第

十一月二十五日京城管理局にて淸津に擧行すべき淸會線開通式順序は左の如し
午後零時三十分第一爆竹を合圖に開式す
久門出張所長の開式挨拶
久保京管局長の工事報告
久門所長の[illegible]
山縣政務總監の告辭
支那道尹の祝辭
桑原道長官の祝辭
久保京管局長の式終了挨拶
十二時五十分第二爆竹を合圖に食堂開始
天皇陛下萬歲三唱
午後一時半第三爆竹を合圖に模擬店開始
萬歲三唱隨意退散す

◉京元線特別旅客列車

廿一日午前九時三十分南大門驛發列車には淸會線全通式列席來賓たる山縣政務總監以下多數搭乘するを以て特別列車局用車一二等合造車等を聯結し普通の貨物列車を除き純然たる旅客列車となす由

◉京城商議候補者

京城商業會議所議員總選擧は既報の如く十二月一日午前九時より午後一時三十分まで一級、午後二時三十分より四時まで二級の選擧を行ふ筈なるが今回の有權者總數は八百三十一名にして議員候補者は現議員中五六名は起否未だ確定せざるも他の二十數名は無論候補者に起つべく此の外現議員以外に既報通運の村瀨鎌次郎氏外建物會社の大賀龜吉、梶原末太郎、進辰馬氏等も今回は候補に起つべき意思ありやに傳へらる

◉自然は斯かる狀勢に
―支那時局に就て―
上海總領事　有吉明氏談

十八日歸任の途次內地より釜山に上陸せし有吉上海總領事を訪ひ支那の時局に就き質せば氏は語つて曰く
段祺瑞氏も馮總統の懇留に依りて辭表を撤回せりとの新聞電報を見しが果して段氏が留任を諾したるや否かは未だ確聞せず、けれども自然は

▲斯かる結末に陷るの外なからん孫文氏は廣東に據りて獨立を唱へ民黨系より推されて大總統と號し居れるも何等の實權を有することなく南方は殆んど陸榮廷氏の掌中にあり勢ひ段內閣に對し事毎に反對の態度を示し遂に南方各省に獨立を宣言し即ち南北對峙の狀態を呈し北方派の段政府は遂に武力討伐を行ふの外無きに立至りたり然るに馮總統は南方派に對する武力討伐を否認し稍や反對の態度を執らんとする意向ありとの噂あり爲めに段氏は馮總統と意見の一致を缺ぎ殊に討伐軍は段氏の意の如くならず是等が

▲主因となり　且つ督軍連が段政府に對し牽制を加へんとする態度に出づると厄介なるを以て機敏なる段氏は此機會に於て自己の信任を問ふ可く斷は突如として辭表を提出したるものならんと察せらる世人は段氏の辭職を以て南方民黨派の勝利なりと評するも吾は民黨派は斯かる勢力を有するものにあらず矢張り南方武力派と北方武力派との軋轢を見るの外なし此の間に起てる馮總統は北方派に屬する如くして亦南方派に與するが如く

▲圓滿主義を採り態度明瞭を缺ぎ爲めに段も關しく遂に意を決したるものなるべし予は久しく南支に在住し居りしを以て北支の情勢を詳にせず且暫らく內地に歸省し居りしを以て今回は支那中央政界の狀況を見學すべく北京に赴き靑島を經て上海に歸任する積りなり（釜山）

◉總稅務司來鮮

支那總稅務司アグレー、奉天稅關長ハンソン、駐支英國公使館書記官ランムトンの三氏は廿二日來鮮京義線新幕附近に於て狩獵をなす由

◉石塚總裁著京

東拓總裁石塚英藏氏の一行は三十日新義州一泊の風說ありしも右は取り止めしものゝ如く二十日午後七時二十五分著列車にて歸京す

◉荻田局長歸任

南鮮地方に出張中なりし荻田[illegible]務局長は二十日朝歸任せり

◉切田氏再渡米

總督府技[illegible]朝鮮銀行の囑託を受け米國[illegible]中の同氏は過般一時歸朝せしが本月末朝鮮諸事打合はせの上明春早々再び米國へ向け渡航すべしと

人事消息

▲幸山正義氏（釜山區裁判所）十九日附を以て大邱、光州へ出張を命ぜらる
▲平井三男氏（庶支部專賣課長）十六日附を以て釜安へ出張を命ぜらる
▲野口勢一氏（元山土木局出張所長）十四日附を以て咸北へ出張を命ぜらる
▲左內榮三郎氏（大阪亞鉛會社重役）二十日朝入京浦尾へ
▲齋藤忍北一郎氏　十九日夜入京不知火へ
▲村田三非金剛山主任　十九日午後入京浦尾
▲大島八幡製鐵所技師　十九日午後內地へ
▲笠井工學博士　二十日朝平壤へ
▲加藤定吉氏（代議士）同上

彼れ此れ

○辭職せし佛國首相パンルヴェ氏は、算術の大家として世界に知らる。英首相ロイド、ヂョーヂ氏は、極めて數理に無頓著にして一萬と百萬の桁違ひを、平氣で演說する人也。算盤專門のパンルヴェ氏は、二箇月にて失脚し、數理に頓著なきロイド、ヂョーヂ氏は『四方八面に亘り、盛に切り廻しつゝあり。○非常の際には、萬事桁外れに行くの可か。算盤は却て、邪魔物になるかも知れず。

○亞露の片田舍には、實際穀物家畜等には不自由なきも、汽車の貨物を積載して、一度歐露に行くや、決して還り來らず、行方不明となり、甚しきは燃料の代りとなるが故に、如何にも仕樣なしと。○露國の無秩序は、實に意外なるものあり。強盜橫行の如きは、唯其の一部のみ。

○上泉中將、大日本主義を鼓吹行脚に出發の劈頭、上野驛にて車窓より首を出し『我が國は今や將に、他國の大なる壓迫を受けんとしつゝあり』と始むるや、列車既に進行し始むるも、中將外に對して依然大聲演說を續け、大に上泉式氣焰を發揮す。何時もながら中將の元氣は愉快也。

十一月一日現行

位階を追陞せられたる 我が古英雄の面影
信長は斯くして安土城を築けり

織田信長が戰國亂離の際に出で[illegible]たること多く今回贈位の恩典を以て[illegible]るが其築ける江州蒲生郡安土村の[illegible]城址[illegible]る十餘町高さ二町餘周圍一里半天正四年信長[illegible]く我邦に於ける天主閣の濫觴なり[illegible]十年明智光秀の亂に從ひ[illegible]三城の礎石等存するのみ[illegible]左衛門、市橋九郎右衛門、[illegible]第一の[illegible]所に召され安土城史[illegible]今日氏が[illegible]

▲戰國亂離の代
亂逆を排して天下を統一せし織田信長は尾張清州城によりて尾州を平げ濃州に移るに及び岐阜により近江より進んで

▽近畿を 平定するや城塞を近江の湖東安土に築き七層の天主閣を起し巨石を疊みて雄築を極く し其宏大壯麗なる實に稀古に比なかりきと安土城の如き大壯麗なるは備戰國時代に防守を主とした城塞建築の衣鉢を傳へたるものありと雖も而も從來の山險水阻の

▽要害を 利用し櫓を擬へて依り柵を設けて郭をなすに止まりしものとは大に趣きを異にし四方經營上の中心地となさんがためなりしなり當時の信長は既に大體に於て

▲海内統一方針 を決定せるに偶々本能寺の變ありたり、想ふに安土城は中山道及び朝鮮人街道に接し伊勢への捷路を有し且琵琶湖に臨み四通八達水陸運輸の便備り北陸東海を控制し又西に向ふの便あるを以て

▽各方面 への策動上要土に占據せしものなるべし天正四年正月中旬より構築に著手し佐和山の城主惟任五郎左衛門長秀普請奉行としての其造營を監督せり同年三月二十三日信長自ら之に移り工事の進捗其の結構大に意に適し長秀を賞せり其四月朔日石垣を築き又天主を造る爲め尾濃三越若畿内等十一箇國の諸士人夫を徵發して工を助けしめ

▽出家の 身と雖も漏れなく出役せしめ觀音寺山、長命寺山、伊場山等より石材をとり京都奈良堺の工匠を召集し又唐人を招きて瓦を燒かしめ滿山城郭の功を竣へし間約三年を費せりこれより先き天文弘治の頃南蠻人鐵砲を傳へ從つて安土の城は

▲最新式築城法を 用ひたるなり、而して湖邊の名城として天下の士をして仰望せしめたり、信長の事蹟中特筆すべきは

▽王事に 勤めたると當に攻戰的精神に富みたる事是れなり、亂をなす者は日く人心祖く武治を離れんとするに當り禮儀を廢し驕奢を事とするに至りたるなりと、然れども斯の如きは已れの望みを遂せんがため此に從らに英雄的方略のみの段に止り信長が眞に尊王の大義に出でたるの志を思はざるものと言はざるべからず

▽信長は 幼時より皇室の衰微に就て自然的感化を享けたるもの、如く然に京都に入りて皇室御料の復活を目擊し勤王の思想[illegible]鎌倉以來數百年の政權を執り來りし幕府を撤廢して茲に皇室を奉戴するに至れり是によつて天下一般に

▲尊王思想勃興を 促し鎌倉以來雲霧に蔽はれ給ひし皇室がこゝに炳々たる光輝を放ち從つて尊王の思想は永く國民の血管に流れ以て

▽萬吉の 經營を扶補し[illegible]るに至れり[illegible]しもの信長の力亦與つて大なり[illegible]を漸次進めて[illegible]に[illegible]るも[illegible]の開きたる事なしと[illegible]きは實に

▽戰時上 に於ける[illegible]の領有にあらずや、戰備上[illegible]攻勢に出でざるべからず[illegible]なるのみならず[illegible]るの方針なりと[illegible]

猪!猪!!
疾風の如く散兵線を突破す

▼十七日午前 十七日早朝愈々正誠峯狩立ての準備を整へて宿營地なる彌勒里を出發した一行は前日通り三十餘頭の朝鮮馬に鞭打つて高原街道を西に行く事

▼一里餘 にして正誠峰山麓に達し馬を下て葛折なる峻坂を登つた見上ぐれば正誠峰は巍峩として天空に聳ゆ鳩猫虎踞の岩石は層々相重つて仰ぎ見るだに肉震ひ骨躍るの念ひがある喘ぎ〱〱狩部に到著すると一行は二隊に分れ

◇◇◇ 山本氏及屈從の一隊は正誠峰山頂に於て ◇◇◇

一方の持場を引受くる事となり本田氏は重要地點を擁して勢子が獲立つる獲物を一擊の下に仕止むる事に決して各持場に向ひ記者團は山腹部を下つて正誠峰に相對する山麓に屯して狩立を觀望する事となつた

▼枯草を 敷いて水筒を傾けながら晝食を終る頃ほひ俄然一發の號砲が靜寂な山岳を搖つて鳴り響くと正誠峯山腹山麓に蟠踞の散兵線を敷いた勢子が相呼應して喊ぶ聲が谿に傳し轉下する大石は千仭の谷底に轉々として其の音響は全山に響き一種凄愴の氣が漲る

◇◇◇ 勢子は蟻の如く平地の如く巖石を飛ぶ ◇◇◇

る事猿猴の如く中央深石に向つて次第に散兵線を縮少したが其の行動の敏捷さは觀戰記者團をして驚歎せしめた斯くて約二時間の後勢子の急迫愈々急を加へ叱咤の聲喧しく大山將に鳴動して峻嚴崩れんとし如何な猛獸も慄ひ戰かんとする刹那

▼風なきに 草木靡然として凄まじき音響起るや山頂山下より『猪!猪!』と叫ぶ聲が一時に起つた瞬ひを定めて正誠峰九合目あたりを眺むれば黒き二頭の怪物は疾風の如く散兵線を突破して南方山中に逸走する、俄然失敗!の聲は何處からともなく響くと

◇◇◇ 勢子は一時に狩立てた ◇◇◇

止めて徐に第一回の狩立は勢子の戰闘に依つて見ん事失敗に終つた緊張した士氣も一時に弛んで戰闘の後全山空しく沈默に立返つた觀戰記者團は此の狩立てに依つて策戰の一般方略と勢子の活動振りを覺ましきに驚歎して獲物以上の

▼獲物を 得たと喜び合つた第一回の狩立を終つた本田砲手は山頂に獲物御座んなれと待ち構へつゝ有つた山本氏に戰況を報告した後更らに狩立を延して屏風の如き嶮山を矢の如く驅け下つて觀戰記者團にも同樣の報告をしたが其時の本田氏の眼には

◇◇◇ 悲憤の淚が溢れて石頭大將の記者團も ◇◇◇

慰める言葉さへなかつた報告を終つた本田氏は再び山麓に取つて返し勢子を召集して策戰を凝らし各自の持場を定めて自身は七十餘度の急傾斜を蓁然に野獸の如く驅上り時分を計つて

▼合圖の 號砲を發射すれば再び起る喊聲の聲は山に響き投

ぐる大石は巖石と衝つて轟然たる大音響を發し殺氣天に漲つて其の壯快なる言語に絶する程であつたがあはれ武運拙なくて流石の正誠峰を廻らしたる本田氏の

◇◇◇ 策戰も再び徒勞に歸して落日傾きて ◇◇◇

正誠峯頭を染むる五時頃露營の途に著いた此日の狩立にして成功せば本田氏に取つては一番槍の功名となつて北鮮猛獸狩名手の名を擅にし得山本征虎軍に取つては

▼血祭と なつたるものを首途の空しく猪二頭を逸して正誠峯の山巓を騷がしたるは惜しみても餘りあるが本田氏が記者團の觀戰に便する爲めに不自然の策戰をなしたる結果斯くも失敗に終りたるは同情に堪へざる處であつた(細屯里にて特派員白川巳之助)

虎狩隊畫報 狩陣の獲物の豹
山本虎狩隊の内の永同軍に十七日午後四時虎島面にて豹一頭を獲た、これはその記者撮影である。(寫眞は山本氏)

紀州有田火災
十九日午前一時紀州有田郡箕島町[illegible]より出火町役場其他十六戶卅三棟を燒失し五時鎭火せり(大阪特電)

後藤東庵翁
久留米の醫者後藤東庵翁は十九日逝去せり享年八十一歳(久留米電報)

大した大袈裟な事では無い
▽鷲尾京都府事務課長談 十九日午後[illegible]

▲事故を發生 しなかつた[illegible]

▲列車が驀進 して來たの[illegible]

[illegible]

鹿島丸坐礁
神戸酒井商會所有船鹿島丸(二千三百五十一噸)は大連にて豆粕を滿載して關門海峽通過の際二十日午前八時和田岬沖にて濃霧の爲め坐礁せるが滿潮を待ち引卸しを爲す筈なり(門司特電)

陸上の海兵生活
▽[illegible]

▽親しみ を持つてゐる[illegible]

▽覗いて 見ても其處に[illegible]

▽防寒の 設備は全く至[illegible]

▽經驗を 平時に於いて實地に試みる時もあるさうだ、これらも同じ陸上勤務とはいひながら陸軍とは大分違ふところである、陸軍より海軍の方が、すべて自由のやうに見ゆる、然らば彼等海兵の一日の勤務の模樣はどういふ風であらうか

有菌鼠發見
有菌鼠二頭四日市にて發見さる(大阪特電)

常陸丸 紀州沖にて漁船に拾ひ上げらる の投入したる瓶
行衛不明となれる常陸丸搜索の爲め郵船筑前丸は飛行機を搭載出發の筈なるが常陸丸の投入したる瓶が此程紀州沖にて一漁船に依つて拾ひ上げられたり其中には同船危險に陷りし地點明瞭に記載されある由(大阪特電)

女工百餘名重輕傷
高岡製針會社工場の二階墜つ
越後高岡東洋製針會社工場二階墜落し女工六十五名は蟈の如く重傷を負ひ外に三十餘名の輕傷者あり(大阪特電)

讀者文藝 (一等に五十錢 [illegible])
▲下句付『逢ふた時』
◎逢ふた時搾ての想ひ三分云ひ(一等) 利川 山櫻
▲―遂し淚が顏に落ち 京城 [illegible]
▲―節は知れども名を忘れ 仁川 松洞
▲―言ひ出かねて無心狀 元山 [illegible]
▲―逢はれぬ經理を詫びる首ひ 利尾 [illegible]坊
▲―猪口才なりと鮫役 堤川 [illegible]
▲―按摩は既で人な知り 延安 [illegible]
▲―人目はばかる智惠は出す 龍山 小草子
▲―云はない奴が既で云ひ 龍岩浦 [illegible]
▲―切れる淚が猪口に落ち 龍山 多[illegible]
▲―後談邦迎へ夢 來天 さもね
▲―互に無事を祝し合ひ 義州 松月

課題及募集規定
□募集規程 △用紙は[illegible]
[illegible]

商況

債券現物特電
[illegible]

公債直取引
[illegible]

米川正米特電
[illegible]

東京期米特電
[illegible]

大阪株式電
[illegible]

大阪三品特電
[illegible]

大阪期米特電
[illegible]

下關期米特電
[illegible]

雜報
◎綿糸布強硬 [illegible]
出好況 [illegible] 綿布の印度輸[illegible]
圓四十二百八十一 綿布は三錢九圓七十錢或は七十五錢
◎株式は區々 [illegible] 四圓方反 [illegible] 採算上と實勢 [illegible]
落株米株等は却つて小高 [illegible]
◎金巾類更に昂騰 [illegible]

南大門の廻穀
[illegible]

釜山穀物(十九日)
[illegible]

京城正米
[illegible]

市場雜觀
表面は買手振ひ人氣は安唱 [illegible] 入津の多き丈 [illegible]

下關穀物
[illegible] 不勢の成行

迅速(御注文) [illegible]

仁川期米
▲二十日前場(不勢) [illegible]
二十四圓〇七錢 [illegible]
八錢安 六錢安 [illegible]

生魚市場
[illegible]

乾海苔好氣配
[illegible]

北西の風晴 [illegible]

株式會社仁川米豆取引所仲買人 [illegible]
[illegible]商店

滿鮮の融合統一と滿鐵
滿鐵京城管理局長久保理事談

今回の出社は京城管理局長に任命せられてより始めての出社なれば事務の打合せ等に就き可成りの多忙を極めたり要するに滿洲線及び朝鮮線の運輸連絡上事務上の

▲統一を計る　事が其の主なる打合せなり此れに就きては朝鮮鐵道局より本社の業務研究に轉じたる三本、武井、秋山の三氏と大體の打合せを爲し三氏は近かく滿洲線全線に亘りて視察を爲す筈なるを以て更に統一に就きて好多の好材料を提供せらるゝ事なるべし滿鮮兩線が眞に一鐵道の如くに統一さるゝ日は少くも滿洲及び朝鮮兩地が同様の如く感せらるゝに至るの日なるべく此れ一に時の問題にして今俄かに之れが同一ならん事を望むは無理なり然れども能ふ限り其の

▲機運を促進　せしむるは極めて必要なるべく其の方法としては今後朝鮮滿洲兩線の從業務其他の社員の交任を行ふも一つの手段たるべく又其の形より先づ整一を圖りて後精神的に及ぼす手段としては從業員の名稱又は服制の統一を圖る事等も必要なり服制統一の第一に事業上に現はれたるを直通列車の運轉及び客車等級制度の劃一となし近かく更に貨物運輸の統一も實現せらるゝに至るべく社内部の統一實現も必要なれど一般旅客公衆に對する便宜を圖る必要上茲に制度の

▲根本的改革　を行はざる可からず即ち同一社の經營に係る滿鮮兩鐵道線に於て同一貨物の同一距離の運賃に相違を生ずるが如き有様にては統一の實の擧らざるは別として一般公衆に取つて甚だしく不便なるを以て是非共運輸の統一は速かに之れを行はざるべからず鐵道以外に於て見るも從來滿洲及び朝鮮に於ける邦人は全く別個の制度の下に別個の感情、別個の生活を營み來り今俄かに之れが融合統一を圖る事は困難なるべきも之れまた時の力に由つて

▲兩地の邦人　の産業其他凡て連絡あるものとなるべきは必然の道理なり從來朝鮮在住の邦人は常に南方母國をのみ顧望して其の取引に於て資金の需給に於て常に母國と對照して亦滿蒙を顧みざるの偏頗にして因循なる感情を有したる事實なりされど今や漸々として開發進歩せる朝鮮各道の産業生産品は之れを内地市場に其の販路を求め同地の生産品と競爭的態度に出でんよりは寧ろ之れを

▲廣漠たる滿蒙　及び支那市場に求むる事遙かに有利なるべく朝鮮總督府の産業方針も既に之の方面に向かへるものと思惟せらるゝ滿鐵に於ても滿蒙及び支那に關する充分の調査を遂げ居るを以て此の調査の指示する處に由つて進むに頗る有利なるべく此の點よりしても滿鮮の經濟的融合統一は遠からず現實せらるゝに至るべし（大連にて）

◉滿洲の新事業
大橋新太郎氏談

十二日奉天瀋陽館に入りたる大橋新太郎氏曰く最近滿洲と内地商工の關係は著しく密接の度を加へ種々重要なる連絡を生じ滿洲が益々發達に向ひたるは喜ぶ可し自分等は先年滿洲に於ける製糖業の有望なるに着眼し調査の結果之れを糖業の泰斗荒井泰治氏等に謀りて遂に南滿製糖會社の創立を見るに至りたり次に滿洲興業株式會社は滿洲の發達に伴ひ人口の增加に鑑みて滿洲に於ける市街の建造土木建築物等經營の爲めに最初東京建物株式會社の事業として滿洲支店開設の議ありたるも滿洲の事業は滿洲に根據を有するものを可とするを以て安田善三郎氏等と謀りし在滿有志と相謀り今回同會社の成立を遂げ同社は差當り鞍山站の市街地建造に當るものなるも漸次滿洲各地に及ぼして支店出張所等を開設するに到る可し猶ほ製紙パルプ會社は鴨綠江村より製紙パルプを採取する目的にて近く成立するに到る可く同社は其本社を新義州に置く筈なり（奉天）

◉吉長線方面の産業（二）

千古に秘せられし大富源たる木材は吉林省に於ける主要物にして其の森林は松花江の支流拉林河に沿へる四合川と上流頭道江、二道江附近にして松花江の沿岸は數十年來濫伐の爲め悉く禿山と化したれば伐木者は五六百支那里の上流に遡り各支流の水源地域に分け入りて伐採せり然れども

▲運搬の不便　なる爲め濛江縣内にても僅かに頭道江沿岸と東北磐石口附近の外には斧鉞を入るゝに由なく天然の良材も空しく放棄して顧る者なし四合川は吉林省城の東北四百五十里一面坡の西南四百三十里双城堡の東南四百五十里に位置し拉林河上流石頭河及び大沙河の會流する地點にして一小村落に過ぎざるが其の東方一帶に蒼蒼たる

▲小白山脈の　大森林を控ふるを以て近年漸く人の耳目を惹くに至れり露國人は光緒二十三年以後此の森林の伐採權を獲得し木材の運搬を利用し盛に伐木を流下し今や河岸は悉く耕土と變じ且つ四合川より三四十里を遡り且つ河岸より二三十里を隔る山地に於て伐採せざるべからず樺甸縣の境界たる那爾轟を越わ南樓江縣に入れば著しく

▲良材の豐富　にして立木の種類は椴松、杉松、黃花松、白楊、椴、楡、樋、柞等にして處々依りて差異あるも一般に松樹多く其の七分を積を以て算すれば裸松其の七分を占め直徑一尺二三寸より二尺四五寸のもの多く中には四尺餘に及ぶものも亦少からず椴樹は幹直にして大なる低濕の地に密生し一目其の花松林なる事を認め得る處なり木材の主たる産地は楡江の木條子、下字屁、眼又は木條子の北二十里を距る半截山の附近東北四十里なる双甲子より東に當り約十里

▲延長五六十里　に亙る森林なりとす杉松の大きさ殆んど相似たる直徑三尺以上の物は稀なり次は楊林を大とし他は松樹の中に混淆せり木材伐採に於て把頭と稱する人夫頭數百人の人夫を引率して山地に入り込み伐採に關する取引を爲し吉林府には其の把頭に資本金を供給する問屋ありて伐木税斧税に關する點は鴨綠江其の他各地と大同小異なりとす之れを要するに

▲松花江の流域　は伐木業者の先驅に因りて開發され續いて農戸の移住となり漸次四方に發展し今や沿岸一帶に耕地を見るに至れり是れ一に水運の利用に外ならざれども數十年來濫伐の結果四五百里の上流に遡れば水運の前途貧弱にして既に衰微の傾向を生じ今や陸路の開發を試むべき時期に到達せるものとす松花江は吉林に於てすら水深き處八九尺其の他は水深三四尺に過ぎずして舟楫の便に乏し（奉天）

◉青島貿易打擊

青島上海航路は近く運航を引上げの計畫あり之が實施の曉は從前濟南方面より山東鐵道に依り青島を經て上海に出でたる貨物は津浦線に依りて南下し更に揚子江を下りて上海に出づるに至るべく山東線の主産品の大宗たる落花生落花生油等は其の主産地の大汶口方面なる結果として日本へ仕向品以外のものは概ね青島を經由せざる事となり青島貿易は打擊を受くるに至るべし

◉支那現銀欠乏

十二年度の支那に於ける現銀の輸入超過を聞くに金は一千百八十萬八百四十九兩の輸入超過を示し銀は二千八百六十七萬八千百二十兩の輸出超過を示せり是は同年中南方の各省は政府に反對して兵を擧げたる爲め全國各地の人心を危惧せしめ内地人民の多くは爭ふて現銀を上海に輸送し其安全を圖るの傾向を生じたるのみならず銀貨は逐日騰貴しつゝありしを以て銀を金に換ふるもの多く從つて上海外國銀行の現銀は豐富となりし爲め自然海外に輸出せらるゝに至り今日にては反對に現銀の大缺乏を來し内外貿易に少からざる影響を及ぼせり

◉黑省の其後

確報に據れば鄭家屯より進行したる吳中將は數日前黑省城に達し英旅長は免職、巴旅長は辭職し英氏後任には騎兵隊團長巴英額氏後任には團長李慶祿任命され巴旅長は責任を感じ自ら師長を兼任せり英旅長は去る十日黑龍江省の本省軍隊を招き引渡しに際してそれぞれ指定地に退避し軍備漸く鎭靜せる者の如し

◉日支合辦造紙
百萬元で吉林に

吉林の長白山及び牡丹江一帶の大森林より豐富なる材料を得て吉林に於て日支合辦の製紙會社を設立する計畫は最近頗る進捗し富寧造紙有限公司の名にて農商部の認可を得目下其の開設準備中なりと資本は大洋一百萬元兩國人より折半出資して總辦には吉林財務局長蘇宗輝氏董事は上海商務總會長曹汝霖氏、原源治郎氏（王子製紙）にして目下神氏の代理事務所を吉林に設け事務開設に努めつゝありと

◉土木救濟未決

滿洲土木組合に於ては本年の經濟界不況に就ては當業者の懇請により過般來之れが救濟方法に就き中央に計畫中なりしが本月八日の各割方分配によれば積算に據れば八十錢仕上げの豫算は金一坪一圓二十錢を要し到底請負の契約を履行し能はざる状態なり之れが救濟方法に就ても未だ其の緒に就かず解決は容易ならざるが如し

◉棉花集散狀況

平安南道龍岡郡池雲面眞池洞市場は棉花の集散地にして昨年の如きは大邱、群山等より棉買入として多數商人入り込み買收せしめしもの七百顆の巨額に上り毎市日には八萬七八千斤餘りの取引ありて鮮人仲買商人も相當の利益を收めたるに本年は十月初旬に於ては二斤の價格二十錢以上なりしも漸次下落し目下十五六錢にて取引せられつゝあり最初に買占めたる仲買商人は一俵に付き六七圓の損害を蒙り資金の融通に困難し居れる狀態にして棉花の集散も昨年に比し非常に淋しく毎市日に四千俵内外の取引に過ぎず隨つて地方農民は一般に惜みの體にして倉庫に棉花の堆積四百俵内外なりと

◉三國信托公司

日支米三國合辦の一大信託公司創設を計畫せる者あり大なる可く下旬に支那側に於て資本は已に募集を終はり目下種々準備中なりと

◉軍械器借款近情

軍器借款問題に就き目下彼我の當事者は極力進行を圖りつゝあり兎も角已に識定せるも未だ正式調印に到らざる事情ある爲め大抵年内には其成立を見るべしと

◉平南養蠶戶數

平安南道に於ける本年度の養蠶戶數は四萬六千八百二十戶にして前年度の養蠶戶數二萬八千二百五十四戶に比すれば一萬一千三百六十戶の增加なるが昨年の養蠶戶數に比すれば四十七戶の増加なり之れ地方農民の養蠶の有利なることを周知せるを一面道當局の指導宜しきを得たるによるものと云ふべし

□大連印象記

○朝鮮から大連に來た者は大連に於けるアンチ朝鮮熱の甚だ盛んなるに一驚を喫するであらう○兄弟もたゞならざる朝鮮滿洲の間柄で何故に斯の如き反朝鮮氣勢が昂まつて居るか一寸判に苦む

聞けば三線連絡問題の際に於ける双方の論議が根に成つて居て今や鐵道統一の結果問題の根は無くなつたが感情の枝葉が枯れたまゝ殘つて居るのだといふ事だ○其の信朝鮮をよく理解せぬのと大局から考へずに目先きばかりの立論の結果アンチ朝鮮の感情は可成に濃かつて是も非るなく朝鮮を嫌ふ氣味がある○勿論相當識者の間にはそんな馬鹿氣た話はない寧ろ議論の分れは極端に走つて感情のひねくれた者も少くないからそんな馬鹿な話があるのかと一概に云はれぬ（未完）

白山黑水

△記者は過般の大演習は途中十四日から始まつて居る△その北軍司令官は先達まで奉天に居た秋山大將であるのも興味深い△それに就ても想ひ出さるゝのは昨秋九州に於ける大演習である△當時大元帥陛下には鳥栖附近の日田の縦嶺から壯々たる雄風の中に立たせ給ふたが折柄在任の田中大隊長に朝の忠臣菊池の勇戰の事を御下問遊ばされた△菊池氏は云ふまでもなく現奉天督軍顧問菊池大佐の先祖であるが陛下には菊池の川の流れを望ませられつゝ、お、あれが菊池の山か……と仰せられた△諸演を了へて田中大尉の光榮身に餘つて泣いた許りと聞いた△その中隊の名は今に忘れることは出來ぬ目下撫順に居るとか聞いて居る△それにあるのも面白いことである△その大演習はすつかり菊池氏の想ひ出で試みられたと云つても宜しい戰の跡であつた△菊池氏が足利尊氏の軍に破れた多々良河畔に當り陛下には親しく御閱兵の時がある△菊池武時は北條氏の探題を襲擊して破れた博多の忠臣である△それに菊池氏の先は曾て滿洲から日本を荒した刀伊の賊を擊破した藤原隆家の部下であつて後ち蒙古の精銳が今津灣に上陸した時に菊池武房が蒙古無敵軍の鋒鋒を挫いて居る△當時の蒙古兵は遠くカルパシヤ山脈を越えて匈牙利を蹂躙した勝軍であつたが日本軍もさすがに一歩も退却させなかつた武房は常に先頭に立つて居たのである▲奉天の菊池大佐は最近第三十二代目の菊池氏をうけられた村だが何よりお芽出たいことである▲記者は昨夜久留米平野の紅葉の中で御野立所前に白兵戰に立つた菊池大佐の面影を今に思ひ浮べる（奉天）

演藝案內

大正館　電話八七三　櫻井町
十一月十六日より秋季特別大興行　大活劇「デブ君の水難」（全四卷）　悲劇　新派家庭悲劇「孔雀草」

浪花館　明治町二丁目　電話二六〇番
十一日より浪花節大一座

黃金館　電話二三六七　電話三六六
十一月十六日より特別大興行

有樂館　電話　有樂館

馬晋自動車營業開始
本月十九日より馬山晋州間を新自動車を以て晴雨に不拘左の通り運轉致候間御愛乘希候
午前六時　晋州發（定期車）
午前八時三十分　晋州發（臨時車）
午後三時　馬山發（二台）
乘車賃金三圓
晋州自動車組合

バザー
本月廿三日前九時より後四時迄傳道及慈善の目的を以て當教會構内會館に於てバザー開催仕候御來館相仰度候
京城南米倉町九十番地
聖保羅婦人會

高峰博士發見の高貴藥アドレナリンを主藥とす
東京室町　三共製藥株式會社

大阪堂島米穀取引所仲買人
渡部製靴店の擴張
渡部製靴店　渡部支店

羽毛類各種高價買入
鶴鷺鴨雉子特に尾羽は特價にて買入申候
御報次第參上御相談可申候
東京市下谷區上車坂町一
神田商店
電話下谷六三五五番　振替東京一八三四五番

運勢　一冊十五錢　陽新堂
桑苗種苗　種苗農園

●送電停止廣告
發電所機械故障發見に付修理の爲め明廿一日午前六時半より七時迄三十分間送電停止仕候間御需用家各位へ謹告仕候也
京城電氣株式會社　京城支店

京城永樂町二丁目　入院隨意
酒井婦人病院　院長　酒井一郎
電話二六〇・一八〇番

診察時間　初診の御方は可成午前中
京城長谷川町二丁目
シメノウチ醫院　電話八二一番

比較は最良の撰擇法なり!!
サクラ正宗
京城明治町二丁目　山邑酒造京城支店

內科小兒科　村上病院

カスミ網

眼科専門　入院隨意
江頭眼科醫院

能く貴丸る
M印ゴムマリ

二十日　△當限寄付　二十五圓〆七錢　△中限寄付　二十四圓三十四錢　△先限寄付　二十四圓十二錢

汽車　京釜線（南行）（北行）　京義線　湖南線（南行）（北行）　京元線（北行）（南行）　京仁線（仁川行）　馬山線　[illegible]

左甚五郎

第九十席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

觀世太夫は稍あつて容儀を正し『拙者の家には數百の面も貯へてある、昔より名人上手と云はれた者の彫刻した面が[illegible]、質に此の葵の上の面には及ぶまい、前代にも後代にも此位の面を彫る者はあるまい、如何なる名人が居るか知らぬが、總りに人は拙るものでない、源吉とやら面を上げなさい、那樣それでお役に立ちませうか、一役に立つ處か、質に此の位な面は手に入つたのは此の觀世太夫の[illegible]である』源吉は難有う存じます、[illegible]

の御一言を承はりましたので私も滿足、又草葉の影の親父も嘸ぞ喜んで居りませう』觀『何に草場の影の親父とは』源『誠にお久しぶりでございました、小さい時分にはお厄介になりましたが、京橋松屋町の源五郎の伜源吉でございます』觀『何に、では每度此方樣へ出まして御厄介になりました刻師源五郎の伜とな、ドレ〳〵面を上げて見せイ……オー成程幼な顏に見覺えのある源吉であつたか、能う無事で居つた』源『伜でございまして四谷へ參り諏訪町の甚五郎棟梁の世話になりまして何うかこうか人がましくなりました處が此度差配さんのお骨折不思議なことで親父が葵の上の面故にお出入止めになりましたのを私が又彫る樣なことになりました』觀『ウム然うか、其後親父は何うしたか』[illegible]

まする際、並に觀世が二ツに割りましたる葵の上の面、其處へ並べて涙ながらに物語る、觀世太夫も暫く茫然として居りましたが、觀『ウーム然うであつたか、質に[illegible]ことをいたした、拙者も只其の道に熱心なるが故、其方が子供の時分小言を云つて追歸せしが、其の事を[illegible]にいたして源五郎が自殺をいたしたとは氣の毒千萬、併し其父の名を惜んで其方が今七年の今日に[illegible]樣なる名譽の面を彫ると云ふは全く源五郎が草葉の影より手引いたしたる樣なものだ』源『それは手引きをしたのでございませう、此頃源吉さんの居る長家で青い火が燃るから』觀『馬鹿を申せ』觀世太夫に[illegible]ては早速香の用意をいたしまして源五郎が自害をしたといふ[illegible]それへ[illegible]つて南無阿彌陀佛〳〵と

[illegible]く此の[illegible]名を唱へて居りました、其の樣子を見て源吉は勿論[illegible]に於ても興に涙にくれて居りました、稍あつて源吉は[illegible]『それでは全く此の葵の上の面は、お役に立つのでございますな』觀『立つが無銘では叶んから此の面に銘を入れろ、それも源吉では叶ん[illegible]何うぞここに[illegible]（甚五郎）と[illegible]りこんでくれ』源『へ、有難うございます、先生からお許を受けま[illegible]』[illegible]

人參エキス　[illegible]　小倉[illegible]大藥房

九星　[illegible]

中風病　[illegible]

壹千反限り
高貴織
正金代金指輪進呈
[illegible]

軍隊毛布
[illegible]
東京　[illegible]織物伸織店

梅毒と淋病に
最も進歩したる
化學の妙技
▽強力なる内服藥で
▽自宅で安全に治る
[illegible]

無代進呈
東京市本所向島小梅町
東京藥化學研究所

こらが染
君の代
品質本位
しらが染君が代は
[illegible]
大阪　山吉商店
關西代理店　伊藤朝日堂

胃つぎ
明治町ふらんす教會前
荒川仁壽堂　電二五九五番
治療

タン、セキの病には？
□大變よくきく藥
[illegible]
□痰咳持病の人
[illegible]
□たんせきの種々
[illegible]

八木田博士推薦　島田博士御推奨
胃病には
マーゲン
本劑の特色
[illegible]

[illegible]山商店案内
[illegible]
來設調製器　販賣
[illegible]

長岡商店

洋酒
罐詰　卸商
釜山長手通
あづまや商店
振替京城三九番

御用商
洋酒　洋菓子
[illegible]
滿鮮代理店
釜山幸町
ミヤトミ商店
電話八一一番

内外雜貨
冬物荷捌
近藤商店
釜山本町三丁目
電話長七六八番

釜山大廳町
明治屋本店

は快く出來なければなりません、不精々々やつて居りますやうでは身體がすつきりと清潔にならうで等がございません、爽かで人の心を晴やかにしますには入浴の際家庭の湯殿でしたらば浴槽に、錢湯でしたらば槽にとりました上り湯にミツワ印の雫を滴して用ゐますと清邪な薫が湯氣と共にやはらかに立ちますから、此からの冬の冷たさには特更入浴が懷かしいものになります。

ミツワ雫の雫を塗りまして皮膚へ擦り込む樣にし暫くしましたらお湯で緊く搾つた手拭で拂へる樣にしますと皮膚に吸はれない餘分が除られて皮膚は潤澤を持つて自然と肌理が細かになつて行きます、ミツワ石鹸を使つて入浴をし湯上りに此ミツワ雫の雫を用ゐて居りますと、此から皮膚の荒れ易い初冬にも皮膚の荒れを知らずに過されます。

急所急所

何事をなすにも急所はあり　お化粧にも同じく急所あり

河合武雄談

（ミツワ文庫六、一二）

[illegible]

京城南大門通二丁目　漢湖農工銀行前
ドクトル　メヂチーネル
若槻寛隆
電話二四六二番

京城電氣會社製　特約販賣
コールタール
金物商　島田忠作商店

資本金　壹百萬圓
諸積立金　二十七萬餘圓
京城南大門通一丁目
株式會社　朝鮮商業銀行
一般銀行業　倉庫業
銀行長　趙鎭泰
支配人　豊田敬明
南大門支店　本町支店　仁川支店　平澤支店　群山支店　東大門出張所

内科
胃腸病
診察夜九時迄
京城本町一丁目
石川醫院
電話一二三七　一二九〇番

優等清酒

釀造元　福岡縣三井郡山川村　富安本店
發賣元　京城本町二丁目　富安京城支店

産科
婦人科
京城壽町
二宮醫院
電話一二〇一番
醫學士　二宮亮吉

大日本優等清酒

品質純良
衛生無害
釀造元　攝津灘御影町　嘉納合名會社
京城本町二丁目廿番地
發賣元　前田酒店
電話一三七番　振替口座四三二五番

イケダ小兒病内科醫院
池田季雄
京城三越呉服店前へ入る旭町四丁目
電話　醫院一一三四　自宅八八〇

貯蓄預金
元金百圓ニ付日歩壹錢三厘
金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店
京城黄金町　電話[illegible]
同　龍山出張所
龍山元町二丁目　電話[illegible]
一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候
諸預金貸付爲替銀行

外科
皮膚科
瀬戸醫院
京城旭町二丁目　電話二四九八番
（診察夜九時迄）
醫學士　瀬戸潔

京城日報
二十一日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

露國の形勢

京城日報

過日露都ペトログラードに於ける過激派が、暴力を以て假政府を倒してより後、露國の政治界は又復混亂狀態に陷りたり。假政府首相ケレンスキー氏は、露都を脱して大本營に赴き、其同志を糾合し助に求めて政府回復を圖り、共事を共にするものは即ちコルニロフ、カレヂン二將軍なり、其政治的中心を莫斯科及びドン、コサックの都市たるノヴオチエルカスクに置けるより見るも、ケレンスキー氏はコサック兵及び軍閥の力に依て國内を一統せむとするものなるを推知すべし。

昨今露國の事態を傳ふる電報は一々矛盾撞着、何れが眞なりや其判斷に苦まざるべからず、蓋し假政府派過激派各々通信機關を利用して自己の氣勢を張るに力め、前者が露都を回復したるとを叫呼すれば則ち後者自己の存在を誇稱するに是れ急なり、是れ其の電信甚だ區々たる所以なり。然れども所謂過激派なるものはレニン一派の非戰論者を中心と爲し、其擧動は擧てよ露國人の疑惑を懷くところなり、假令一時烏合の衆を用ふるを得るも能く久しきを保つべからざるや論なく、其實力を相較するときは過激派は弱者たり。然れどもケレンスキー氏とても當初勞兵會を根據として起ち、既にして勞兵會と絶ちて立憲民主黨と結び、今や更に轉じて軍人軍閥と手を共にす、其轉變條忽すべからざるものあり、今春革命以來露人自ら稱して自由の露西亞なり、新らしき露西亞なりと云ふも其實は無政府の露西亞なり、幾百年前の混亂時代の昔に復りたる露西亞なり、若し強て比き類を求めならば千九百十一年革命以來の墨西哥と相比すべく、共國内は四分五裂し、政治上の諸勢力互に相爭ひ、軋轢葛藤切り同士討ちを繰り返して底止する所なし、吾人嘗て露西亞の革命は今日僅に其序幕を開きたるに過ぎずして出處三年五年は言ふも愚かなり、或は十年二十年を混亂の内に過さゞるべからずと説きたるは、則ち斯る行程を履むべきを豫想せるものに外ならず。

世間露國革命を喜び之を世界の新氣運に謳ふものなきにあらずと雖も是は全く[illegible]ひの沙汰にして、世の中に是程悲慘なるものはなく、一たび之に遭ふときは久しきに渉りて混亂を極め、國力衰耗、國威失墜、復た回すべからざるの運に至らざるを已ます、二十世紀に於ける革命は第一に墨西哥、第二に支那、第三に露西亞といふ順序にて墨西哥は革命以後七年を閲みして、今猶ほ國内に混亂を極め、外國の投資者は漸次其資本を回收し、農商工諸業一として凋落せざるものなし、支那は又一年の前支那革命あり、尚其より一年[illegible]亂、又内亂政變又政變、最近の段内閣こそは支那の爲に立憲政治を確立すべしと期待せられたるに、[illegible]頭段氏と馮總統と相容れず、[illegible]處が就き、段氏の手足たる大官も相率ゐて内閣に反抗す、最近長江筋の李純、王占元、陳光遠諸都督、段氏の辭職を要求したるの故を以て段氏辭表を提出し、又復變の端を開き、何人も其適歸する所を知るものなし、支那革命に其經濟[illegible]、露國革命は猛烈險惡世界に比を稱す、而して猶且此の如し、然るに温和なるを古今東西[illegible]其混亂多きは固より其處なり。

大演習地史蹟（四）

青霞生

▲多賀神社　高宮驛の東方一里多賀村に在る大社にして伊弉諾尊伊弉冉尊を祀れる（史家は云ふ伊弉諾尊を祀れる多賀神社は淡路に在り此社は犬上君の祖先を祭れるものならんか）多賀に多賀、栗太に作る名を用ゐ宮と云ふ一の鳥居は石造にて高宮に在り

四、彦根附近

▲佐和山城址　彦根町の東方に在り京極氏の臣磯野丹波守盛豊初め之に居る、其後石田三成ここに居りて羽柴秀吉より封を受け天正十八年三成之に封ぜられ[illegible]之に居る、三成は秀吉の爲に佐和山十九萬四千石を領す、文禄四年[illegible]降伏し[illegible]を以て豐臣秀吉に受け五奉行の一人として威權を揮ひ、慶長五年九月十五日關ヶ原に於て徳川家康と天下分け目の大戰を交へて利あらず伊吹山中に遁れ回天の業一朝にして地に委せり十七日關東軍進んで佐和山城を圍む三成の父正繼、兄正澄等留守し即日落城して三成の一族皆自殺す城後に懸崖あり女臈の際婦女崖より投じて死するもの多し故に名づけて女郎ヶ谷と呼ぶ落城の際婦女崖より投じて死するもの多し故に以て名づく　云ふ役後徳川氏の宿將井伊直政佐和山に封せられ後彦根に移る

▲佐和山・彦根山・一に佐渡山なり永正七年三月淺井、六角二氏の兵此山に小戰を交へたり

▲彦根城址　慶長六年井伊直政上州より移りて佐和山城に治し十八萬石を食む然るに佐和山城水利に不便なるを以て諸子彦根山（一名金龜山）の地を相し之に城かんと欲す幾くもなく直政卒し子直勝之を継承し大將軍徳川秀忠伊賀伊勢尾張美濃飛驒若狹越前七州の諸侯に詔し直勝を助けて工を起さしむ城の周圍約一里、其中央に天守閣を築きしもの即ち彦根城にして舊時の三層樓は淺井長政か小谷の城に大津に築き秀吉が長濱城に移せると云ふ城門なり、天秤天藏は秀吉の築ける長濱城の三層樓は（後ち秀吉が長濱城に移せるもの）なり、城の北二之丸の湖に在る樂々園は頭直孝之に代り城郭を大成す起工より算して凡そ二十年にして成ると云ふ井伊氏の別邸とす此城八幡口を以て船手と爲す、佐和山口を搦手と爲す大手、松原口を以て本丸、城は兵法家の所謂平山城式なり

▲平田山　彦根町の南方小野附近の丘阜なり慶長五年九月十七日徳川家康佐和山城を攻圍せし時此地に陣せしを以て著名の地なり

▲鳥籠　鳥居本の南方に在る古名を鳥籠と稱す古への驛の跡なり、其東方の山を鳥籠の山と呼び（一名正法寺山）俗に鍋尻山と云ふ鳥籠の名、床に通じ古歌に著名也、犬上の床の山なる名取川いさとこたへて我名もらすな（古今集）（讀人不知）

鳴く鹿は峯か麓のとこの山旅の枕に野おくるなり（俊成）

不知哉川一名名取川は大堀川の上流なりと云ふ（完）

支那漫遊

南行より青龍橋

蘇峯生

張家口驛の特別車より啓上。十月廿三日は、南口より北京發、張家口行の急行車を、待ち合はずして、前八時十分、同所發の貨物車に便乘し、青龍橋迄赴き、其處にて待ち合はすとゝせり。南口より青龍橋迄は、所謂る三關の絶險にして、路は險崖を縫うて登る。汽車は後より推し、予等は車箱正面の外部に、椅子を並べて坐し、車は徐々に進行す。恰も特別に觀覽車を仕立てたるに似たり。但だ予は鐵欄に麻繩を繫ぎ、それを手にして、搖り落されざらん用心をなせり。此日は晴、山は陰、白雲は鋸齒を列ねたる如き、連山の頂きを徂徠し、楊柳、楡樹、梨、柿其他あらゆる雜樹は、錦の如く、而して秋水流淺、石に激して駛る。其間に廢壘、荒城、殘壘、壞臺相接す。而して汽車は、居庸關を横に避けて行く、支那人の所謂る居庸關山洞を出づれば、居庸關には、嵌の向に俯視す可し。元、明、清の諸作家、何れも題詠甚だ多し、予豈に一時なかる可んや。

㟁嶸山勢白雲封、天塹關防知幾重。崖樹秋深葉如錦。匹輪容易過居庸。

三關とは、南口也、居庸關也、而して中間に、幾條の長城の支線あり、又た塹壘あり、城柴あり、而して自然の破壞と與に、汽車線路開鑿の爲めに、隨處人爲的に破壞せられたるもの少からず。彈琴峽も、汽車は斜めに避けて行く、彈琴峽の如きは、上より見下ろす可し。彈琴峽や汽車の背にして、道上より見上げたる隙は、今山洞を過ぐれば、已に青龍橋に著す。時に十時前二十分也。

大正六年十月四日午前五時

謎（130）

布施生譯

彌太郎は今は自分の邪魔にはなるとも最早其には何らない事を看て取ると、彼は躊躇なく彼一流の手段を廻らした。或日彌太郎が町で遊んで夜になつてヴエネの別莊へ歸つてくると淋しい街で不意に屈強な男が二人小路から出して前後から彼を取圍んだ。そして何々しく縛つて彌太郎は驚いた。[illegible]は彌太郎を拉して、時[illegible]そうしてまゝて油斷を見澄まして後[illegible]いから到底逃げられぬ、流石の彌太郎も武藝も少しは心得てゐる、[illegible]身を躱すと同時に一目散に逃げた。それから二三日たつた彌太郎は料理屋に上つてゐると、誰か入つて來て喧嘩を始めた。[illegible]我慢してゐた彌太郎もそこは年若で仕舞にはまた何とも辛棒が出來なくなりとうとう立上つて取組合を始めた。

二つとも彌太郎の指揮に運びないで大騒動となつた、ぜたんばた、[illegible]命に別條はなかつた。

彌太郎は直に氣付いた、氣付くと共に彌太郎は腹を立てた、今その大事な仕事として散々骨を折してゐきながら今になつてこんな不人情な事をする、今に見ろ貴方からもと怒つたがしかし同時に又心配にもなつた。なにしろ相手が藏部ときてゐる、油斷も隙もあつたものでは無い、二度迄は幸に免れたがしかし三度目はどうだらう、藏部の氣質を知つてゐるだけ彌太郎はもう氣味が惡くて堪らなかつた、外へ出るのも心配、家に居るのも心配である。犬でやられるのは兎も角第一毒が恐ろしい、そう思出すと食ふ物飲む物にストリキニーネの香がするやうに思はれて安心が出來なかつた。

これでは所詮やりきれない、ぢつとしてゐるより此方からも何か手段を取つてやらう、そうは思つたものゝ之が貧乏時代なら二三圓の事でも隨分人殺しはやりかねなかつた、今多少金が出來て見ると段々臆病になつてもう無鐵砲なことはやりきれない。折角手に入れた十四萬圓と云ふ纒つた金もあることだ、下手なことをしてそれを棒に振るやうな事はしたくない、どうか穩に藏部と手を切る方法は無いものかなあ。

湖南の形勢に付き[illegible]に達したる情報を綜合すれば

▲第八師長態度一變　傅督軍の下にして討伐軍司令官たりし第八師長王汝賢氏は最近に至り[illegible]結果十五日拂曉軍艦に搭乘して急遽長沙を去り十六日午後六時漢口に電家らず爲に頗る窮地に落ちたるを講ぜんとしたるも中央よりの回[illegible]し直に中央政府に電報して善後策を[illegible]軍の長沙逃去後王汝賢氏は十六日『余は南軍討伐に來りたるものなれど徒に内に鬩くは余の本意に非ず故に直に討伐軍全部に停戰を命ず一方督軍に對しては辭職を勸告せり』[illegible]も要を護したるを以て既に同省は軍武兩政の首腦者を失ひたるを以て王汝賢及び討伐軍副司令官範國璋の兩氏は協議の上省議會及び商務總會等の同意を得て十六日『軍民[illegible]

▲南軍に停戰交渉　而して王氏は十六日夜に至り南軍へ軍使を遣り停戰に付き交渉せしむるの危險に陷れる爲め王汝賢氏より[illegible]備の軍隊を配備し居れり

▲領事團の協議　前記の如く長沙の形勢頗る險惡なるを以て事館附近には三丁餘に亙りて砲列布かれ居れりと[illegible]も領事の用意あるか如く[illegible]

本紙定價　一ヶ月金[illegible]　[illegible]
廣告料金　[illegible]
發行所　京城太平通一丁目　京城日報社
電話番號[illegible]　振替貯金口座京城三〇〇番
發行兼編輯人　[illegible]
印刷人　小川三之介

最新刊
實業評論
久留義郷先生著
銀行會社商店必備の書　空前の好評
註文殺到　東京出版社

娯樂世界
伊達娘　座頭　[illegible]
徒黨の血判　信夫の常吉　尾崎の智惠
正宗と村正　潮走能郎　入れ眼
午后十一時
大飛驒大尾崎
十二月號
石町の鐘　葬式大喧嘩　興味春場所　藝人の鑑札騷　私の龍蛇神　大流行骨董熱　株式大暴落　活動の寫眞　風の夜
娯樂世界社

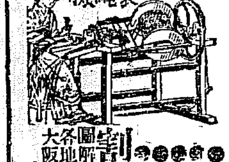
應用電氣講習錄　速成
[illegible]東京神田小川町[illegible]電氣科

法人登記
[illegible]
楊口出張所

購買　陸軍倉庫
大麥[illegible]

競技大會
十一月廿三日
賞品[illegible]
巴州亭幹事一同

美術石版印刷
名刺[illegible]
佐藤印刷所

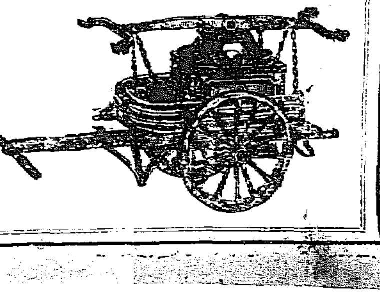
淡速式製繩機

割引券付

露國公債最低直賣出
短期拾箇年償還五分五厘利付　西暦一九一五年一九一六年發行
軍事公債賣出額僅か
總額壹百万留限賣價
壹萬留以上壹百留に付金參拾五圓
五百留以上壹百留に付金參拾六圓
買受申込方法
代金拂込方法
代金拂込の御都合上便宜
金丈で此有利なる公債を買求め得
參圓餘に相當す
露國は金貨國露國の壹百留は日本の壹百〇一朝平和の風吹かば直に暴騰大利疑なし
露國政府發行五分利付
西暦一九一七年
總額壹百万留限賣價
自由公債賣出額僅か
百留に付金廿參圓にて即賣
此公債は西暦一九二二年[illegible]
公債特權
買受希望者は即賣に付代金現物御引取の事但御便宜上特に軍事公債に準じて取扱をなす
公債現物御覽隨意
軍事及自由公債共申込定額に滿たる時は拒絶す此場合は書留郵便の先着順に依る
特典　本日より向ふ三日間内に御申込の分に對しては特に金額の五分を割引す
株式會社第百銀行　株式會社十五銀行　日本橋區青物町
株式會社麴町銀行　合名會社田中銀行　麴町區麴町六丁目
横濱正金銀行東京支店　京橋區木挽町
株式會社八十四銀行支店　京橋區尾張町
日本橋區兩替町
合資會社　永島商會
東京市麴町區麴町一丁目一番地
創業明治參拾五年二月
▲注意　近來如何しき商舖輩出し一般顧客に對し御迷惑を相掛くる事尠なからずと聞及候に付斯る商舖とは御取引無之樣特に御注意申上候

新田帶革
朝鮮總代理店　白神洋行
京城南大門外　白神洋行支店

一、間知石外四種　右購買ス詳細ハ十二月貳拾壹日以降ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
朝鮮總督府

土方教授在職二十五年記念　私法論集
新刊　日本發賣
菊判全一冊　上製金參圓五拾錢
有斐閣

凡テノ點ニ優秀なる消防具を提供するは熊平なり
全鮮消防組御用
京城本町　熊平支店
電話　三一六　二一二五　二四番
振替京城二二番


梧州大元帥府設置 李烈均、陳炳焜の奔走

陸榮廷氏は梧州に大元帥府を置きたるが李烈均、陳炳焜氏等獻策し奔走中なり（北京特電）

梁總長辭職原因

梁啓超氏は財政困難なる時兵を養はんとするには軍人と關係深き者財政總長たるを要すとて辭表を提出せるは既報の如し而して此の裏面には命令の僞造事件あり即ち十七日國務院より中國銀行に一千萬圓の支拂命令を發し銀行は一應財政部に之を確めたるに梁氏は毫も之を知らず秘書長張志潭氏に照會せしに同氏も同じく之を知らず調査の結果陸軍次長徐樹錚氏が專斷の結果に出でたること判明し梁氏は大に怒り張氏と共に辭表を提出せるなりと（北京電報）

交通系割込まん

梁財政總長、王外交總長、唐内務總長、林司法總長等相次いで辭表を提出せる結果新たに交通系を入れて内閣を組織する事となるべく段内閣の前途益々多事なるべし（北京特電）

王氏を陸軍總長に

段祺瑞氏の陸軍總長兼任を免じ王士珍氏をして陸軍總長を兼任せしむる大總統令出でたり（北京特電）

進步黨陰謀暴露

今回の政變の裏面には進步黨系の陰謀伏在せるもの如し進步黨は參議院を以て大局を左右せんとの野心を包藏し居たるも議長選擧の結果軍閥及び交通系の後援を有する王揖唐氏の當選を見たるより前途を悲觀し寧ろ段内閣を崩潰せしめて黨の發展に資せんとせる事實ありと（北京特電）

湖南北軍敗走す

十八日午前四時湖南護國軍は獨立を宣言し北軍總司令部を襲撃し總司令王汝賢氏は逃亡し北軍は續々長江の下流に逃れ其の他の北兵全部城外に退却せり南軍は近く入城す可し本邦人には何等被害なし（長沙特電）

條約謄本を隱匿す 元露國外相ネクラソフ氏姿を晦ます

露國元外務大臣ネクラソフ氏は露國と聯合與國との間に存在せる各種條約の謄本を安全に保存するの方法を講じたる後之を隱匿し何れにか姿を晦ませり過激派は同氏の逮捕を命じ右書類を搜索しつゝあり（露都電報）

過激派 ケ氏逮捕命令

過激派の軍隊はガチナを占領しケレンスキー氏は逃亡して蹤跡を晦ませしを以て過激派は各地に打電し同氏を逮捕すべく命令せり（露都電報）

ケ氏失敗の經過

ケレンスキー氏の失敗は其の決斷力なきと餘りに辯論の力に依頼せるとに基因す彼は性來斷然たる事に臨んで之を處理する勇を缺き單に群衆の弱點を利用して事を爲さんとするのみにして其の成らざるを看るや少數の哥薩克兵と龍騎兵並に數門の大砲を以て此の混亂狀態を鎭壓し秩序を回復せんと欲したる如き時既に遲く過激派露都を掌握するに至れるなり士官學校は過激派に對して最後まで支持され士官候補生は勇敢に奮鬪し當るに委せて敵を殺戮し其の屍體を運河に投せり（露都電報）

續 政變經過說明

馮總統は十七日各省督軍に對し政變の經過及び段内閣留任の理由を述べ同時に王汝賢氏は出征[illegible]

幣制借款進行す

中國銀行整理の爲め幣制借款前渡し二千萬元の交涉、四國銀行團と圓滿に進行し不日調印[illegible]

[illegible]輸送は茲一週間後より停止すべく[illegible]中將は哈爾賓長春地方の講演を了へ二十日午後三時四十分奉天着大和ホテルに入れり、二十一[illegible]

[illegible]は滿鮮の民國飛行會員約二萬に上る[illegible]可の指令達したるを以て來る二十四日頃より營業を開始する筈（新義州特電）

[illegible]稅關長主催となり官民有志の招待會ありたり（安東縣特電）

見返と滿鐵株

[illegible]

莫斯科和戰締結

莫斯科にては十七日戰鬪を中止し和約を締結しケレンスキー氏の所謂白護衛隊は武器を拋棄し公安委員會は解散する事となれり（莫斯科電報）

過激派主權を握らんとす 過激分子の決心堅し

[illegible]下の形勢に據れば講和締結を政綱とする聯合社會黨內閣の組織を見るに至るべく過激派は其の新内閣の主旨を握らんことを主張しつゝあり其他の社會黨各派は國内に於ける流血の慘事を避けんことを熱心に希望し居るも過激派中の過激分子は公然最後まで鬪はんことを主張し居れり（露都電報）

朝鮮官幣大社奉祀 二十日の閣議にて決定

朝鮮に官幣大社奉祀請願の件

二十日午前定例閣議を開き本野外相より外交經過報告あり後ち左記請願を採擇するに決し散會したり（東京特電）

朝鮮事業債割當濟

朝鮮事業興業債券四千五百萬圓の募集割當は十九日決定し日本銀行より應募者に通告せるが興業銀行の申込み二千九百萬圓の優先募入を差引ける殘額千六百萬圓に對し現在應募總額四千七百九十萬圓中より申込額百圓未滿のものは全部を百圓以上のものは申込額の三分の一弱を募入し全部割當濟となりたり（東京特電）

政友關西大會

政友會關西大會は二十一日開會の害なるを以て原總裁以下一行二十日夜大阪に着せり（大阪特電）

宮尾長官東上 京城を經て

宮尾民政長官は都督府廢弟に關する要務を帶び二十日午後零時三十分大連大和ホテルに投宿したるが二十一日午前十時三十分發京城を經て東上すべき豫定なり（大連特電）

驛建築祝賀

湖南線黃登驛建築祝賀は各地よりの來賓多數にて盛會なり（黃登特電）

益有望なる朝鮮の木材（下）

＝内地木材界の不振＝ 營林廠長 齋藤音作氏談

▲北海道材は奈何 然らば北海道材は如何と云ふに是れ又東京、名古屋、京阪神方面の工業勃興に伴ひ其の需要に應ずるに一生懸命で他に手を染める餘地がない許りでなく其の源泉が漸次減少し來り目下の塲合將來決して多くは望まれない狀態であるのは重ね重ね寒心に堪へない又樺太材は奈何と云ふに是れは殆んど云ふに堪へぬ即ち樺太材は多くは小材のみにて棟梁の木と稱するものが絶無であるのみならず現今では樺太地内にて經營されつゝある製紙會社の需要に吸收されて他を顧みるの暇がない、而も世人は殆んど此の大切な材木森林に對しては多くの注意を拂つて居ない有様であるのは實に憂慮に堪へざる次第である

▲朝鮮の森林と木材 叙上の如く日本内地は今や木材の飢饉に遭遇せんとせるの時に當り聊か之を強ふするに足るものは實に朝鮮の森林鴨綠江の木材である、即ち朝鮮總督府の營林廠の事業であり、今營林廠の事業に屬する森林面積並に材積等を示せば北九州の工業は勿論名古屋京阪神等の諸工業者は大に意を強ふするに足るであらう、左に種類別を揭げんに

種別	面積（萬町歩）	材積（十萬尺締）
▲杉松	七五	二四
▲紅松	二三	五三
▲闊葉	五七	一七
▲落葉松	四九	四二
合計	二〇四	一、三六

其の面積は九州森林面積に比し優に五倍其の材積に至りては一石數に換算して十六億九千萬石）實に十六倍餘、此莫大なる材積を以て内地の需要に應ぜんか百年輪伐の計を以てするも一年尚ほ一千六百萬石を輸出して綽々たる餘裕がある

▲鴨綠江材の移出 内地は今時に木材の飢饉に迫られつゝあり、而して營林廠事業は漸く其の緒に就き著々其の効果を收めんとするの期に到達せり、故に本年より明年に亙り大に内地移出を實行し九州地方は勿論阪神方面に亙り以て内地木材の飢饉を醫さんとす、是れ營林廠本來の目的に副ふ所以である（安東縣）

米鐵解禁の望あり ＝唯値段の問題のみ＝

米國の鋼鐵と日本の船舶との交換問題に關する交渉は日本が米國の申込値段を一旦拒絶せるにも拘らず結局首尾よく解決す可しとの確信官邊より公にせられたり而して唯一の懸案は値段の問題なりと（東京特電）

總監の乘船 平安丸に變更

咸會線開通式に臨席する山縣政務總監一行の乘船は往航は浦潮の平壤丸歸航に五光商會の平安丸の豫定なりしも都合上往復共廿一日夜元山を出航する平安丸（七月の竣工一千五百七十噸）に變更せり因に朝郵よりは本店の山田監督課長及び元山出張所長石川八十郎氏一行と同乘する由

開通式參列員

政務總監一行其他出發 咸會線鐵道開通式に參列の爲め出發の諸氏は愈々廿一日午前九時南大門發[illegible]

古海稅務總長

大演習陪觀の爲め出張中なりし古海稅務總長は愈々二十一日夜九時南大門着歸任すべし

內田大人來らず

二十二日午前京城通過露國に向ふ豫定なりし駐露大使內田康哉子は[illegible]內の情勢不穩なるため一時出發を見合すこととなりたり

重要電報 欄外にあり

支那歸客談

低利資金の需要＝支那の棉花＝上海在留鮮人

最近上海より歸來したる某氏の談に曰く、廿日發行の貴紙を見るに有吉總領事は支那に於ける日本の緊要なる時務に就て意見を述べられた樣だが、眞に有吉氏の説の如く、日本が經濟的勢力を支那に扶植するのは喫緊事であるが、今日に始まつた譯ではないが、今日に於ても尙新たに

▲喫緊事たるを 切に感ずるのである、有吉氏は支那に於ける邦人の事業が、可なりの好成績を擧げて居ると曰はれた樣に皆いてあるが、之れは周知の事實であつて、我輩は其れが大に增設され、擴張されんことを希望してゐる、我が本國に於ける當業者は、支那

▲頭痛鉢卷の體 ちやない か、然るに支那は立派な棉產國だ、上海から輸出さるゝ國產の大宗は棉花である、尤も支那棉のみでは紡績用としては面白くないので、支那でも印棉などを輸入して支那棉に混せてゐるが此の輸入棉を防遏する目的で、米種陸地棉を栽培すべく、近年北試作を行つてゐる、上海に水氣試驗所とて輸出棉檢査所があるが、同所では南京に耕地を買收して大規模の試作をする準備中だと聞いた、山東省の產出の棉花は、初め米國宣教師が、其本國より

[illegible]關稅の引上げられたる曉、綿絲布の對支輸出は大打擊を被るであらうと憂慮してゐる、殊に現在米國の金輸出禁止の結果、印度棉花代金の決濟が困難であると云つて米棉を以て代ふれば非常に高價なものになるので

▲種子を取寄せ て試作させたのが、今日の如き產出を見るに至つた位だから、支那の風土は確かに陸地棉に適するものと思はる、されば支那に紡績業を起すことは現在は寔に角、將來は原料供給の上から見ても有利であらう、但し之れは、日本の當業者が企畫すべき事業は多々あるであらうが、同時に異面目なる在支邦人をして、支那に關する知識を資本の一部として分相應の起業を爲さしむることも甚だ必要であるが然るに支那に於ける

▲我金融機關は 皆な貿易機關であつて、低利資金の供給するものがない、有吉上海總領事も爰に見る處あり、先づ在留邦人をして永住的基礎を定めしむるの必要有るを認め、建物會社を創立せしめ、政府に利子を補給して

貰つて、在上海の邦人を成るべく自己の所有家屋に居住せしむるの案を有つて居ると確聞したが、寧ろ現さるれば單に同氏の功のみではない、上海は世界各國人の集團地であるから、同地に於ける日本人勢力の增進は、之を一面から見れば、東洋の盟主たる

▲我國の面目上 必要であると云へる、其の上海には我新聞の同胞たる朝鮮人も約百名計り居留してゐる、小賣も在るが、大多數は電車の車掌などを働いてゐる其數四五十はあるであらう、電車の車掌としては寔に氣受が可い、又或は米國へ密航する者もある樣だ、無い筈であるが、密航する樣な形跡がある、總領事は此徒を取締へて制裁を加へやうとしてゐたが、密航者は巧みに其網を潜つて總領事を恐々しがらせてゐた、

▲朝鮮の森林と木材 叙上

[illegible]りは其の似顏繪を暫時見詰めて居たが莞爾として▲こんな巧い答を見て喜んで居る國民は決して人喰人種などではないと云つて▲其處で一同は安心して浦賀に上陸する事となつた▲之れこそ實際の珍談でペルリ提督の人物迄想像せられて面白い

[illegible]

人事消息

[illegible]

百濟舊鍾

[illegible]

第六拾七回勸業債券豫約賣出し

[illegible]

◎新年の運だめし 帝國公債 朝鮮支部

[illegible]

家庭雜誌

好景氣が家庭に如何なる影響を及したか

坊やの感想 奧野他見男

十二月號 定價三十三錢一錢半

私の晴着と平常着

役人と商人の妻

婦人成功者

東京 博文館 振替東京二四〇番

新龍山兵器廠横（三角公園東電車通り）

龍山 杉本齒科醫院 電話一一七番

戰前の價格を固守せるもの獨り堀井謄寫版あるのみ
堀井を冠せるもの斯界の白眉なり
京城南大門通二丁目
堀井謄寫堂京城出張所
電話長四〇一二番
振替京城一〇五八番

開院廣告

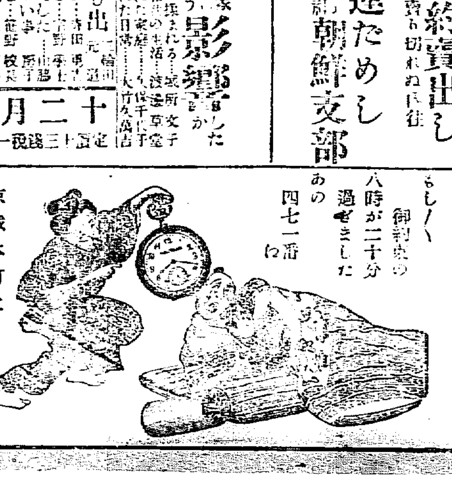
生儀昨秋來京城長谷川町安東病院に於て痔疾治療に從事し本年四月以來滿洲漫遊引續き東上中之處患者各位の勸告に依り再び京城に於て診療に從事可仕此段謹告候也

□痔疾專門 いぼぢ。ぢろう。だつこう。さけぢ。はしりぢ。ぬけぢ。外一般

□入院隨意

京城明治町二丁目三十二番地 元朝鮮貿業會社跡（電話二一〇二番）

京城 久枝肛門病院 院長 久枝秀喜


もし〳〵 御利用の八時が二十分過ぎました あの四七一番ね

京城本町二 村本時計舖 電話七一〇 振替二一九〇

京日案内

普通 一回前金一圓 番外 一回前金一圓 五十錢

▲申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず ▲六回以上の御申込は特に割引のこと ▲御照會は返信附にあらざれば回答せず ▲御照會の節は必ず番號御記入を乞ふ

普通

店員入用 十六歳より廿歳位の身體健全なる人要保證人本人來談 京城本町二 丸一雜貨店 40

貸家 日本建官吏向敷戶より 梅香鐘路新築 賃料安 仁寺洞二五五 井村電一〇六七 46

代診生一名 見習看護婦若干名入用 仁川支局 52

貸家 大和町三丁目老人亭直下 閑靜の地獨立家屋希望の御方は上坂方へ 60

◉融通 月收の御方へ 極秘迅速簡易 立替 御報伺上候 京城大和町三の三二（拓澤前）起木屋 62

番外

乳母雇入 血統正しき身體強健身元確實なる人一名入用 希望者左記來談を乞ふ 部合にては預ても宜し 電壹一弐三 蓬萊町二ノ一一三 二宮 (66)

石材 東大門外安岩洞岡採石場の儘見切放賣す一手引受希望の方は御來談被下度候 永樂町二 電話二〇〇九 岡與一 (67)

◎ボール紙到著 白連丈阪賓發候間御買入被下度候 京城西小門町 電話二七五二 廣興商會 (68)

簿記實踐教授 實踐簿記專修學院 京城長谷川町八九金谷園側 65

恩給 年金五年半分迄 低利無掛引即時立替 若草町百六 電話三千十一 西村商會 795

獵用火藥霰彈 獵具 龍山榮町（電話一五三番）毛利商店 (41)

恩給年金 長期低利 現金即時 替三年分迄無保險 京城南大門外（蓬萊町）電二六八八番 山口屋 13

魔法瓶 及魔法瓶 中瓶取替 京城本町二丁目 電話二三四番 高木旅行用具店 22

雜木 各種 原木板類 卓子 机 ロク・ロー脚各地圖面送附有送見積 京城黃金町 本明雜木店 29

○帝國軍艦の警備

我軍艦[illegible]は重慶附近に遊弋し萬一の場合邦人擁護の任に當るべし（重慶特電）

赤坂離宮の觀菊御宴

♣内外の臣僚數千名を召さる

天皇陛下には二十日午後二時三十分より赤坂離宮に於て内外の臣僚數千名を召され觀菊御宴を催されたり　兩陛下には午後二時御同列にて宮城御出門　同離宮に行幸啓あらせられ御先着の伏見宮、閑院宮、東伏見宮、朝香宮、東久邇宮、北白川宮、李王世子各宮殿下を始め奉り東郷大勳位、寺内首相、長谷川元帥其他文武大官の奉迎を受けさせられ秋芳亭（萩の御茶屋）に御成りあり苑内の菊花を御巡覽の上各大公使同夫人等に拜謁仰付けられ次で假御立食所に於て諸員に御陪食仰付けられ午餐を召されたる後午後四時御機嫌麗はしく還幸啓遊ばされたり（東京特電）

●老砲手泣いて成功を誓ふ

盛んなりし永興有志主催の歡迎會

前日の狩立に失敗した本田氏は悲憤の涙を流しつゝ今日こそは名譽恢復をなさんものと物方山上猛獸の睡の如き曉の星きらめく十八日

♣早朝霜を踏んで 秋馬上徳方面に出動し、本隊は午前十時半に行李を積み馬背に鞭を上げて宿營地を發足した始めの程こそ暴虎の勇あり征虎團も柔順猫の如き馴馬に翻弄され轉倒に土を喰つて顏色も蒼かつたが馴るれば流石に馬にも親しみあつてか至極お手柔くなり『どうだい馬上豐かな姿を見給へ』なぞゝ後に振返つて鼻を高くする位迄には餘裕が出て來た　それでも馬上姿に得意がりつゝ騎虎の勢に驅られて足跡を草めたとたん際ごい處でもんどり打つて畑中に投げ出された豪傑は三人や五人では無かつた　一行が高原に到着したのは午後三時永興行きの列車には二時間半あると言ふので一先づ宿屋に休憩して居ると永興から大約一頭を斃したとの通知があつた一同は

♣歡呼の聲をあげて成功を祝した六時頃高原驛に著くと早朝から秋馬上徳方面で狩立てゝ居た本田氏は十數貫の大狢を擔いで一行の到著を待つて居た一行が其の成功を祝すると本田氏は益々恐縮して『今後は自由に狩立てゝ必ず期待に報います』と言つた顏色は悲痛に曇つて堅い決心に銃を握つた手に震へて居た鹿を逐ふ獵師山を見ずとは言ふものゝ本田氏の如きは元山に相當の資産を有して居りながら猛獸狩に熱中して今日は

♣馬南嶺の深谷に 虎を追ひ明日は擁北徳に熊と格鬪し殆んど高原附近の千山萬嶽を跋破せざるは無き程の腕の者とて一旦斯くと胸を極めて立つ時は險阻聯谷何のその他くまで獲物に向つて突進せねば止まぬのであゐ此の狂的の熱心と不思儀の精力膽力さへ持つ老砲手が悲愴の顏を結んで山本氏に成功が報つた時は野獸的の決心と又名狀し難い感激とが能つてゐて人をして感動せしめずには置かなかつた一行は六時三十分高原有志の見送りの裡に高原驛を發車して永興に向つた驛前には歡迎の提灯が飾した

♣宮民有志數百名

の出迎へあつて直に歡迎會場なる公立普通學校に向つた會場には幔幕及び提灯を以て美々しく裝飾し一行をして其の盛大なるに一驚せしめたが主客席定まるや永興郡守鄭逍氏は流暢なる國語を以て征虎團の一行に向つて歡迎の辭を述べ此れに對して山本氏の謝辭あつて一行は例の征虎歌を齊唱し大いに驍語を交へ九時會衍前に於て

♣記念の撮影をし たが此時永興郵便局長中川顯造氏は自作の詩

日東男子意氣豪　腰間常横三尺劍
南山捕虎虎悲叫　北海居龍龍吐虹
一瓢美酒春樓夕　矚望天外大月高

を朗吟し征虎團の行を旺にして目出度散會した一行は君子門より田村中央子の音頭で征虎の歌を合唱し双城永世の兩旅館に投宿した

虎狩隊諸報

一行正誠峰の狩場に向ふ（廿七日朝）

●二人斬りの豫審終結

三重縣三重郡上村生れの内田文五郎（三七）は同縣桑名郡長島村生れの丹波つる（三四）を内縁の妻とし元鐵道工夫として龍山漢江通り鷺梁津の宅に同棲中本年二月より京畿道飲食店桝原方の酌婦森上こきぬ（三一）と馴染むに至りつるとの間に風波絕えず爲めに相談の上三月二十五日限り兩人は離縁したり文五郎は其の後こきぬを連れ諸方を稼ぎ廻りつゝあるも尙

◆つるに未練 あり本年四月廿日夜突然龍山にてつるの居宅を訪問せしに豫て知合なる古江平八（三七）が居合はせたるより兩人の仲を疑ひながら現場を突き止めんと翌二十一日夜午前二時頃鋭利なる出刃庖丁を懷中して密かにつるの内房を覗き見たるに果してつるとの現場を認めしかば嫉妬の憤怒に驅られ直ちに室内に飛込んだるに平八は危ふく裏口より脱走せしが逃げ後れたるつるを鷲掴みにして右股を刺し附きつる打倒れたるを見て平八を追つかけたるが折柄便所に潜伏しゐたる平八はつるの悲鳴に驚きて飛び出し來り文五郎と格鬪の末辛くも

◆庖丁を捥ぎ 取り共に室に入りて事情を具し平八は文五郎に謝罪したる上つるには應急手當を加へ憲兵隊にも其旨屆出でんと言ひたるより文五郎は突然暴れ出し傍らにありし鮮血の滴り居る件の庖丁を取上げて又も平八に斬りつけしが平八は逸く身を躍らして逃走したるより文五郎は豫て用意し置きたる薪割斧を以て平八を追跡し後頭部に長さ一寸二分の創傷を負はせたる上逃げ行く平八に斧を投げつけたり而してつるは鐵道病院にて應急手當を加へしも負傷當時多量の出血ありし爲め

◆治療效なく 遂に五月十四日死亡するに至り平八は治療の結果快癒せり一方文五郎は兇行と同時に龍山憲兵分隊の手に逮捕され京城地方法院に送られ豫審に於て取調中なりしが遂に有罪と決定し殺人罪として此の程同法院の合議公判に附せられたり

●文展愈々閉會

文展は二十日を以て閉會したり開會期中の入場者二十三萬人を算したり（東京特電）

●海軍航空界の勇士 常陸丸搜査に向ふ 乘つても

◆◆◆◆ 約三時間海上に漂ひ機體の中に眠つた海軍小演習の殊勳者 ◆◆◆◆

日本郵船會社にては行衛不明となりし常陸丸搜索の爲め筑前丸（二千四百三十八噸）を二十四日神戸より解纜せしむ可く而して同船は印度洋地中海南洋方面に掛け約四箇月間搜索す可し同船は無線電信其他有力なる武裝を整へ尙ほ海軍よりは荒木、大西兩飛行中尉百四十馬力トラクター二臺を携へ乘組の筈なり兩中尉が今回選拔の上乘組を命ぜられしは去る海軍小演習の際の殊勳に依るものにして兩中尉は當時青軍に屬し鎮海灣の敵情搜索の命を受け秒速三十五米突の烈風中を飛翔して任務を果し歸途機體に故障を生じ著水せるに激浪に飜弄されたるより運を天に任せて堅麵麭を噛り約三時間飛行機の胴中にて睡眠し居たるを磐手艦に發見され救助されしが聞く者皆其大膽に舌を卷けり（東京特電）

●機關車貨車に喰込む 乘客一名負傷

二十日城東線玉造驛に停車せる貨物列車の後方より客車突進し貨物列車後部急緩車の中に機關車喰入ると共に大破損をなしたるが幸ひにも乘客卧く負傷者一名を出したるのみなりき（大阪特電）

●空中から軍艦を爆破す

海軍の飛行演習　海軍航空飛行將校は二十日吳にて攻擊飛行演習をなし機上より軍艦爆破を試みたるが軍艦よりも盛んに應戰し却々の壯觀なりき（吳電報）

●官舍の壁切り

新潟縣南蒲原郡大崎村生れの山田四平（三一）は京城明治町二丁目の下宿屋に滯在し化粧品行商をなす風を裝ひ市中を徘徊し夜間は泥棒を專門に働きたる曲者にて十月末以降に和泉町官舍今村[illegible]同町官舍丸山某方の壁を切り破り或は板戸を破壞して侵入し合計百餘圓の金品を竊取し品物は僞名して鮮人古物屋に賣却して檢擧されたるが其の他同人は宿料の踏み倒し質札詐取等をなしたることをも供述し本町署にて取調の上檢事局へ送らる

●發狂して自殺

京都堀川今出川下る梅木重次郎方小阪隆（三〇）は過度の勉強の爲め精神に異狀を來し東海道列車中にて自殺を企て生命危篤なり（大阪特電）

●滯納者一人に是丈け手數が掛る

[illegible]

虎が子供を抱へてノコノコ出て來た

ある田舍の事だが、夜になると虎が村落に下りて來て人畜を傷つける事が度々あつた。村の者はその虎を生捕らうと思つて虎の通路に大きな穴を掘つて虎罠を掛けて豚を一匹入れて置いた。夜になると虎は例の通り餌物を探しに下りて來た見ると自分の通路に昨夜迄なかつた大きな穴が掘られてあつてそこには旨さうな豚が入つてゐるから、これはテッキリ村の者が自分を恐れて豫じめちやんと餌食をへて置いたとばかり思ひ込んで穴の中に飛び下りた。すると足が罠に掛つていくら悶いても少しも身動きが出來なくなつた。その翌朝村の者等は『虎が掛つた！〳〵』と云つてその穴の周圍に寄つて集つて虎の見物をしてゐた。其見物の中に三歲ばかりの小供が居たのが誤つてその穴の中に落ち込んだあれ〳〵！』といふだけで何うする事も出來なかつた、虎はその落ち込んだ小供を自分の胸に抱へて默つて眼ばかりパチッカせてゐた。村の者は何うしたら好いだらうと云つて騷いでゐる處へ一人の老人が出て來て、今更鐵砲で虎を打つにしても小供はとても助からないから一つ最後の手段として虎を放して見やうと云つて罠を緩めてやつたすると虎は片足で小供を抱へて穴から出て來た。村の者等は虎が彼の小供を何うするのだらうと心配して見てゐると虎は一丁ばかり往つて小供を草の上に臥かせて置いて逃げて了つた。

●嫁を亂打す

全北淳昌郡金果面大星里秋弘俊（六〇）は長男の嫁金姓女（二七）が病臥中を叱り飛ばしたるに金姓女が口答へせしとて本月十一日遂に金姓女を亂打して死亡するに至らしめ弘俊は淳昌分遣所に引致さる

●飛降り

京城花園町賣藥商金成寶（三〇）は十八日午後九時過ぎ黄金町にて進行中の電車より飛降りをなし頭部に負傷せり

●强盜と格鬪す

全北金堤郡月村面[illegible]の許に去る十[illegible]日夜十二時頃[illegible]棍棒を携へ覆面せる一人の匪賊戸を押し開いて闖入せしかば[illegible]はムックと起きあがり之に組み附き其れより大格鬪を續け取押へんとしたるも何分賊は力強く[illegible]格鬪[illegible]遂に顏面其他數ケ所に傷を負ひ片袖と泥棒鞋等を殘した儘逃走したる騷ぎに急報に接し金堤分遣所にては直ちに非常線を張り搜査したるも其の夜は巧みに姿を晦まし[illegible]されざりし[illegible]

●愛婦[illegible]慰問[illegible]

[illegible]愛國婦人會朝鮮本部にては京城府廳と合同し十一月二十日より十二月七日迄に[illegible]於ける[illegible]龍山[illegible]隊[illegible]に入[illegible]士に[illegible]の爲め茶菓を[illegible]し又[illegible]煙草[illegible]を配布すべく[illegible]にかゝる[illegible]諸種の準備を完了せりと

朝鮮の田舍と醫藥

（二）◇◇當局の施設◇◇

古來『生命あつての物種』で財產も名譽も事業も結局は命數の問題に歸著するのである、當局でも早くも此の點に著眼してゐるので各道樞要の土地には必ず慈惠醫院が設置されて絕わず巡廻診療を施し中央たる京城には內地の大學病院をも凌ぐべき程立派な

▼マ總督府醫院 が設けられてあるが、之れとても朝鮮の衛生施設なるものが隅々迄完備してゐるとは言へない、內地の夫れに比しては甚だ少數で貧弱であると言はねばならぬ、併かし朝鮮の一般から見れば近年醫師の數を增しつゝあるのは事實で大正五年末の現在で開業醫のみで七百七十名に達し內地人が

▼マ五百卅五名 である、其の他に朝鮮人が二百三名あり[illegible]二十一名であつたが大正六年に入つては內地人すべての醫師[illegible]二十九名增加してゐるのは[illegible]を[illegible]する[illegible]は[illegible]朝鮮なるものを活動の天地として

▼マ一剤に醫者で ある。しかし是れとても[illegible]朝鮮人口から見れば九牛の一毛にも當らぬ[illegible]である、[illegible]醫師である[illegible]の[illegible]のみではなく其の醫生[illegible]天の[illegible]である、試みに朝鮮に於ける[illegible]の[illegible]を內地の夫れに比較して見るに內地では

▼マ醫師一人で 平均一千二百人の割當てとなつてゐるが朝鮮では醫師一人で二萬百七人、醫生一人で二千九百人、又た限地開業の醫師醫生一人で二千五百四人の分擔平均となつてゐる、斯かる狀態で尚警察機關には漸次增加の必要を認むるもので現在警察署や憲兵分隊

▼マ憲兵分遣所 等の所在地には必らず一名の公醫を置き傍ら開業を許して一般公衆の診療に從事させてゐる

◎曲藝と史劇

有樂館にては廿日より廿四日迄五日間金剛團來り[illegible]に[illegible]世界的曲藝大家フレード氏の考案に成る[illegible]等[illegible]婦人曲藝師廿餘名出演[illegible]引續いて文藝古典劇[illegible]史劇[illegible]を上場する由

◎浪花館 二十日より開演せる[illegible]ローマの騎士[illegible]八卷を上場する由

一行の好評を博し居れり

◎黄金館 [illegible]新派悲劇『新生さぬ仲』は呼物として好人氣なり

◎正誤 二十日發刊三面に『一家三人殉役の光榮』と題する項中月洲翁が大日本史の編纂に從事したりとあるは、翁の大日本史の編纂に預りたる栗山潜峯の學風を慕ひ云ふ意味の誤りにて又末尾より二十一行目『[illegible]』は[illegible]多少の變化ありしと云ふ[illegible]より十七行目『[illegible]』は『[illegible]』の誤り[illegible]三行目『[illegible]』は『[illegible]』同十行目『[illegible]』の誤植に就き何れも訂正す

○鎌倉丸歸着

我軍艦[illegible]特別任務に服したる日本郵船會社鎌倉丸は二十日無事神戸に著せり

○連絡貨物繼續

長春、哈爾賓間の東淸鐵道貨物[illegible]されたと云はれども[illegible]當局より何等の回答未だ來らず（長春特電）

○長岡中將動靜

長岡陸軍中將は[illegible]に向ひ出發の豫定なるが[illegible]北京より漢口、上海を經て青島に赴き夫れより歸東の豫定なりと（又た同中將[illegible]）

○新義州銀行認可

二十四日營業開始　新義州銀行に對する營業認可[illegible]二十日[illegible]

[illegible]公使館書記官夫妻一行五名黄海道[illegible]新幕附近へ狩獵に向ふ途次二十一日安東に著したるを以て安東[illegible]

[illegible]種は絕對秘密となし[illegible]品種中に包含せられ居るや否やに就ては品種の發表を爲さず絕對[illegible]

在支那公使王[illegible]氏及び書記官[illegible]公使王廷[illegible]氏は十九日午後內地へ出發せり

誰でも樂に金儲は出來る　成金時代の今日こんな方法に依れはどんな小資本家も又無經驗の士でも物價騰貴の今日人間の生活上に缺く可からざる日用品を有力な製造業者が聯合共力して特殊の方法で世界一の特價市價の半値乃至三分の一で卸を始めた此地方一名[illegible]

最新刊
[illegible]

●難病者の福音
●醫者に見放され信心も其效なく不治の難症
例へば腦病。精神病。眼病。脚氣。婦人病。リウマチス。胃腸膜。神經痛。肋病。腦神經衰弱心臟。肺病。腎ぞう病。腹まく等の病中風症。耳鼻に苦む御方は咽喉病。梅毒　是非一度哲理治療を御試しなさい
不思議によく治りますから
京城本町五丁目電車終點前泥橋際
京城健全哲學館療院
院長 哲學士 鈴木天聲

耳聾の全快 論より證據
[illegible]

虛弱者之福音
家庭靈藥 純朝鮮人蔘命貴素
朝鮮京城大和町一丁目四一番地 振替京城四五六九番 電話一二八八番
朝鮮人蔘社
[illegible]

りん病 專賣特許 自宅器械療法
十年の慢性も手輕に治る
[illegible]無料進呈す
東京京橋本材木町三ノ廿五 東京新療法研究所
大阪市北區北森町一番地 大阪新療法研究所

大阪屋號書店
[illegible]

大好評 品切
▲眞綿製ズボン下（三圓五十錢）
後荷十一月二十五日頃到著の豫定
京城本町（電一三六番）塚谷出張店

大賣出し
十一月廿一日より廿五日迄（五日間限）
嶄新流行
ショール
肩掛
毛布
正札より一割引
京城本町一丁目 電話四七番
まからんや支店

櫻御殿

第七十三回 大阪 霞の家主人

安藝の月（十三）

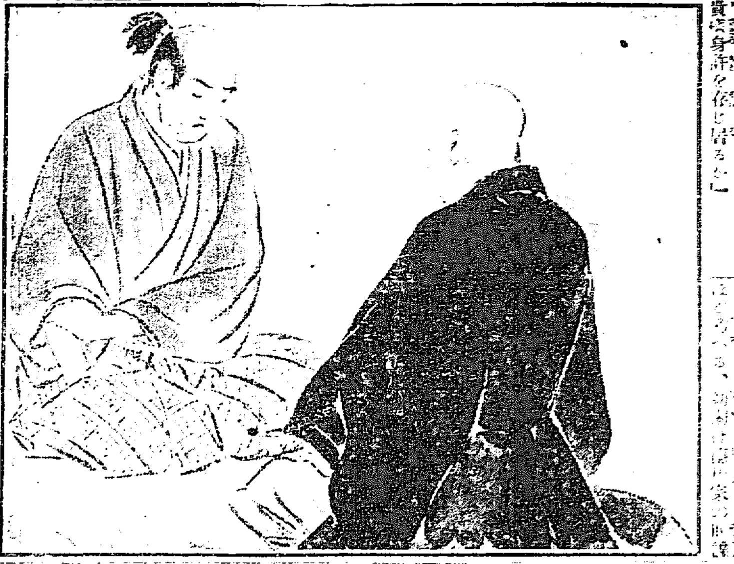
そこでまた四方八方の談話が交される、助左衛門は暫くすると
『や、思ひ出した、今日は丹波殿のお邸へ参らねばならぬ、采女は單獨で歸れ、わしは三の丸へ参る』
と云つて立ち上つた、丹波の屋敷は三の丸の中にある
采女は一座へ默禮して起つた、
道哲は後を見送つて
『親は無くても子は育つ、甚だ立派に成人致しましたな』と云つた
『何やら仔細ありさうな[illegible]』

清之輔は眉を顰めながら訊いた
『人傳に承はり居る、紀州島田殿の家來三國何がしの倅さうな』
『奥方樣御下りの砌、途中でお拾ひ遊ばされたと……左樣か』
『御意ぢや、諸事は初瀬どのお口入を申します』
『何ぢや、初瀬か……』
『それにつき、申し上げねばなりませぬ、先日以來初瀬どのから度々御催促がござります、お手前樣も不行では無し、少しは御推察なされても御難儀にはなるまいと心得ます』
『左樣なことは何うでも好い、采女は初瀬の口入か』
清之輔はその言葉に力を入れる
『低の者大病、途中に難儀致し居るを初瀬殿御覽なされ、すぐお拾ひなされたと承はる、女の優しさまるで月花を見るやうぢやござら[illegible]

刑部樣の奥方ながら美知姫のお心も全然御當家の物とは思はれぬ、その初瀬が拾ひ上げて奥方へ参らせ、奥方から助左衛門へお預けなされたといふに由て、采女の身にも疑念がかゝる、殊に先刻からの目の色、普通の光りでない、察するところ、彼もまた間諜の子か、お奥ばかりではまさかの時の役に立つまじきを思つて、お表にも一味を入れられたのではないか、油斷がならぬ〳〵と一心に思ひ詰める
道哲は清之輔の心に、そんな新しい疑惑が萌して居やうとは知る筈が無い、どうかして初瀬の望みが協へたいと思ふので、熱心に話を進める
『初瀬殿が不憫さうぢや、少しはお察し下されぬか、わしは[illegible]申す』
『彼の采女、成人の後はお召抱へ[illegible]

ぬか、その一言でお情の深さが知れる、強いばかりが能ではない、ちツとはお憐けなされませ』
清之輔はそれに答へなく采女になつて
『すると何か、初瀬の手で拾ひ上げ、奥方樣へさし上げ、奥方樣から助左衛門へお預けなされたか』
『[illegible]はそれぢや[illegible]
[illegible]

になるでござらう』
『性質が怜悧うござる、それに奥方殊の外御贔屓あらせたまふに由つて、一二年の後には、若殿の御近習衆に召されたまふ御内儀もあるさうぢや』
『果して瑞』と清之輔はまた考へる
『采女の事は何うでも好い、わしは初瀬どのに頼まれて、お手前から色好い返事を貰はねば男が立たぬ、篤い縁ぢや、先の心に從つて下され』
『夫の兒に手を咬まれては一大事こちや考へねばならぬ』
『清之輔殿何を御せちや、夫の兒[illegible]
『何處に居ます』
[illegible]



秋日報俳壇

秋季雜詠（四）

鶺鴒や狭霧の底の一部落　山紫坊
鳴飛んで夕日搖れ流れかな　同
鹿鳴くや寐覺化しき坊の宿　同
灯影淡く温泉宿は更けて鹿の聲　同
穂芒に光る草屋の灯かな　同
足跡に水溜り居る刈田哉　味川
信號機の影長々と刈田哉　同
道普請に踏み荒され刈田哉　同
竿折れて道に眺める鳴子哉　同
木版の短冊懸けて子規忌哉　同
秋風や佛の顔に集く虫　紫光
秋雨に門燈淡き巷かな　同
挨り浴びて桔梗の咲ける暖哉　同
間興き捨つ菜々守へる兒鶏哉　生風
大陸の黄なる夕日や野分晴　養朗
化粧する冷かな灯や虫の聲　枕山

□食べ物の滋養分

何と云つても米が第一魚は蛋白質脂肪燐を含む

日頃食べて居る物に就て相當の知識を持つて居る必要があります、主食たる飯米は穀類中滋養分もあり消化も穀物中では速かな方であります然るに米の飯を大害のあるもののやうに云ふ脚氣説が巾を利かせ出した爲め上流で全然米飯を廢して洋食ばかり取つて居る向さへ出來たが之は誤れるの甚だしいものであります、小麥は蛋白質を澤山含んで居るばかりか各滋養分も含んで居るから之も結構です麥は米飯に

◇混ぜる 事は消化を一層速かならしむるから之も好い事です豆類は滋養分に富んで居るが消化が惡いから多く食べぬ事、お芋や大根や牛蒡は滋養の主な部分とならないから魚鳥獸の肉と併せて用ひ又は澱粉の乏しい野菜と配合してもよろしい、魚類は蛋白質及び脂肪に富み且燐を多量に含んで居るので身體の營養に必要です一時西洋かぶれから魚肉を全然斥けて

◇獸肉で なくては營養にならないやうに言ひ囃されて居たが魚類は獸肉よりも消化が好く滋養分こそ稍劣れ食料としては結構な物です其中でも鰊の子と田豆とは分析すると此位滋養分を含んで居るものは他に一寸類がない位ですが共に消化が惡いから健康者に限つて食べるものです去年虎疫が流行した時に人は生魚を排斥して干魚を喰べたがコレラ菌は死んで仕舞ふから大丈夫だが干魚は中途で火を通す事は容易でなく且つ消化が惡いから直接に病氣を惹起す原因となります、斯う考へると生魚よりも寧ろ干魚の方に危險があります、貝類は總て滋養分に富んで居るが之も消化が好くない、烏賊、章魚、鰹、海老も同樣です、牛肉よりも鳥肉の方が消化が速い、牛豚肉は云ふまでもなく滋養分豐富であります

移轉、改稱
院長 醫學士 森定吉
（英醫院改め）
森病院
内科 小兒科
京城明治町二丁目七五 鶴田醫院跡
電話二六二三、一九八番

新刊紹介

△婦人週報（三の四四）二周年の辭、大戰中の各國婦人、戰爭による女子教育變動一束、菊花、彼と彼女の心其他 金四錢 發行四谷五 鳳東京牛込市ヶ谷田町二の一七 其社
△蔬菜之世界（一の二）米國蔬菜種類問題、蔬菜輸入、將來、支那と蔬菜法の奇習、初心の栽培家へ 蠶豆栽培法、商業上より見たる野菜業の營養に關する研究 其他（十八錢 東京神田錦町一の一六 其社）
△工業生活（三の一）十二錢 東京小石川表町百九 日本工業學會
△經世界（三の一一）二十錢 大阪市西區島町一 其社
△石油時報（四六七）十五錢 東京麻布飯倉片町六 其社

▲書籍御案内▼

德富猪一郎 世界の變局 價一二五 郵八
杉林伯知 御前講談 價一七〇 郵五
桃川如燕 新編 理想の家庭 價五〇 郵八
民友社 發行 女義士傳 價五〇 郵八
桃川如燕 名婦傳 價六〇 郵八
早川貞水 赤穂義士傳 六冊各價 [illegible]
德富蘆花 外交奇譚 [illegible]
同 自然と人生 [illegible]
同 青蘆集 [illegible]
同 青山白雲 [illegible]
同 牛 [illegible]
同 商工界の七十日 [illegible]
同 修學行商日記 [illegible]
同 京城市内外の地所 [illegible]
京城日報代理部（振替京城三〇〇）

寫眞
寫眞出張撮影 寫眞銅版 亞鉛版
京城日報社 寫眞製版部

湖南形勢一變

督軍長沙を去る 王氏停戰要求

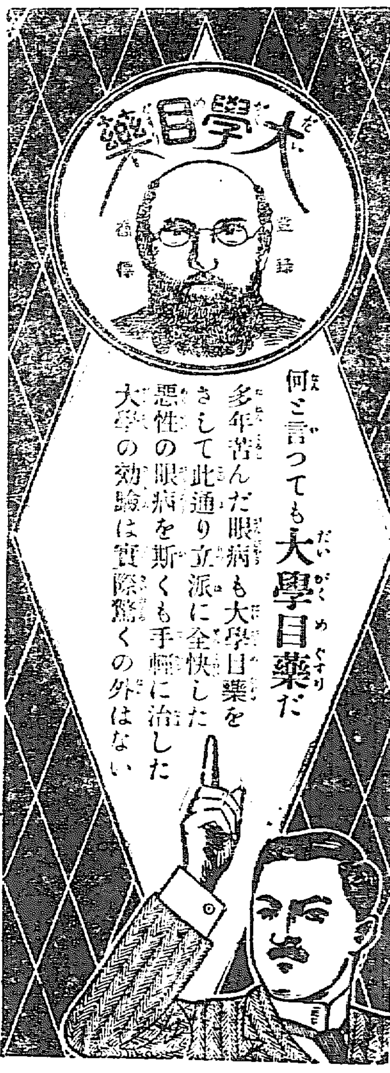
[illegible]突然態度を一變し傅督軍に對し「此上徒に内爭を續くるは不可なるを以て北軍と妥協すべし督軍にして之を聽かずんば余は督軍の節制に服する能はず[illegible]に到着したり蓋し傅氏の意は長沙に於ては今や殆ど策の施す所なきを以て先づ漢口に逃き同地にて中央との聯絡を保ち善後策を講せんとするにありしならんか[illegible]し且つ中央政府に對しては此戰事を中止して調和解決を圖るべき旨を電報せり尚湖南地方の秩序維持に付ては余は充分其責任を負ふべし」との告示を出せ[illegible]湖南收維持公所」を設立したり然も省内の秩序は漸次亂れ掠奪も既に行はれたる所あり殊に同地には掠奪を以て名ある安武軍も入り居れるを以て長沙の人心頗る恟々たり[illegible]所あり然も南軍と王氏側との間には充分の連絡なき模樣なるを以て或は南軍側にては此交渉に應ぜず却て此機を以て一擧に北軍を攻撃するやも圖られざるを以て王氏側[illegible]日英米の領事は外人保護に付き十五日會議を開き其結果十六日打揃ひて王汝賢氏に會見し此問題に付き協議したりと

大阪株式市況 [illegible]

胃病には ホシ胃腸藥
主効 消化不良 食もたれ 溜飲吐瀉 飲過食過 胃腸カタル 惡醉宿醉 惡心胸痞
定價 十錢 廿錢 五十錢 一圓
東京 星製藥株式會社

花王石鹸
於化學工業博覽會（大正六年十一月）
一等賞金牌受領
品質本位の花王石鹸が優秀の品質なるは、既に愛用者各位御知悉のことでありますが、今又此の專門的博覽會に於ける嚴密なる審査の結果を御披露致しますのは弊商會の光榮とする所であります。就ては猶ほ一層の奮勵を以て品質の向上を計り御愛顧に酬いんことを期して居ります。
花王石鹸本舗 東京 長瀨商會

㊕家庭衛生の發明品㊕
便利重寶の發明品
安全第一 衛生かいろ（名人懐爐）
火災なく 將に字書より除かれん
大火災を減ずる發明品
特約店募集
發賣元 特許品製作株式會社 東京市麹町區飯田町三丁目十番地（電話番町二八一九番）
㊕經濟無比の發明品㊕



百圓進呈
りん病 ばい毒
帝國醫科大學病院
にせ物 東京其他各地にニセドラッグあり
大阪有田ドラッグ商會滿鮮本部 京城南大門外停車場通
京城黄金町三丁目 大阪ドラッグ商會
釜山大廳町二丁目 大阪ドラッグ商會
元山本町三丁目 大阪ドラッグ商會
他の薬店に販賣を不許
京城 南大門外停車場通 大阪 ドラッグ商會

大阪商船仁川出帆
南浦、神戸、大阪行 十一月廿三日 午後二時出
鎭南浦 ... 信ノ川丸 ... 安東、釜山、長崎行 ... [illegible]
宮島丸 十二月四日 ... 湖北丸 十二月 午後六時出 ...

日本郵船仁川出帆
大連行、太沽（天津）牛莊行
高砂丸 十一月廿一日 正午出
三河丸 十一月 ...
仁川港 堀 回漕部

朝鮮郵船出帆
本社 電話 一九五二 ...
釜山港 佐藤町 釜山支店
元山港 元山出張所
仁川港 代理店 堀回漕部
木浦港 代理店 山野回漕部
京城 南大門 松原運送店

釜山出帆廣告
門司、神戸、大阪行 ... 日後五時出
元山、清津、浦潮行 ...
元山、西湖、新浦、城津、清津行 ...
門司、宇品、神戸、大阪行 ...
釜山埠頭 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 十一月廿八日 後四時出
大有丸 十二月一日 後四時出
神代丸 十一月廿六日 後四時出
君が代丸 十二月三日 後四時出
仁川港 高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
大連行
共同丸 十一月廿六日 午前十時出
仁川代理店 野口商會
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 河村運送店

元山より北鮮各地経由浦潮行 ...
浦項行、江原道各地経由元山行 ...
濟州島行 ...
木浦ヨリ多島海各島行 ...
仁川發 ...